

【国語科部研究構想図】 2 年次

全校研究主題

自走する子の育成

主題設定時の国語科部の状況

1. 今日の課題から

- ・生成 AI を含めたデジタルの進展が、自ら考える機会を減らせ、言葉の意味や使い方等について思慮深さがなくなっている。

2. 目の前の子供の姿から(全校研究主題との関連)

- ・日常生活と国語科学習(特に表現領域:話すこと・聞くこと、書くこと)をつないだ学習活動を通して、児童生徒が強い目的意識や相手意識をもち、学校生活や社会生活の場で、効果的に国語の力を身に付けていくことができた。
- ・言語活動に没頭したり、楽しんだりする様子があるが、ときとしてそれは活動自体の面白さであって、本文の言葉の意味や使い方等について論理的に考えたり、心に深く感じたりして読む過程や、話し方や書き表し方について日常生活や社会生活に根差した適切な表現を試行錯誤していく過程となっていないことがある。
- ・児童生徒が自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整できるようになりつつある。

国語科部が目指す子供の姿

- ・義務教育期間を通じて、児童生徒が言葉の意味や使い方等について自身の興味・関心の幅が広がったり質が高まったりすることで、日常生活や社会生活において、目的や相手、意図に応じて主体的・協働的に話したり、聞いたり、書いたり、読んだりしようとする姿
- ・日常生活や社会生活において、児童生徒自身が学んできた国語の資質・能力を意識的かつ効果的に発揮することで問題や課題を解決することができる姿
- ・国語科学習で行う言語活動に必要感を抱き、自ら課題を設定し、課題を解決する過程で国語の力を身に付けることができる姿

国語科部の研究主題

言葉と真摯に向き合う児童生徒の育成

1年次の成果と課題

- ・探究と国語科の学びを関連付け、自己課題・自己省察・他者との交流を通して学びを調整することで、国語の学びを必要なものとして捉え、自ら学びを進める姿につながった。
- ・探究と国語科の学びをより明確に関連付けるとともに、自己省察と形成的評価を充実させ、一人一人が身に付いた力を自覚して次の学びにつなげられるようにする必要がある。

自走に必要な資質・能力 **発見力**

「言葉による見方・考え方を働かせ、話したり、聞いたり、書いたり、読んだりして言葉を吟味する力」

国語科部の研究仮説

育成したい国語の資質・能力と日常生活や社会生活とを関連させた義務教育期間の国語科カリキュラムを構成する。次に単元や単位時間の言語活動を通して、児童生徒が国語を学ぶことに必要感をもち、自己課題の設定やそれに対する自己省察の場を位置付ける。そして児童生徒が行う言語活動の現在の状況に応じた適切な個別の指導と評価があれば、言葉と真摯に向き合う児童生徒を育成することができるだろう。

国語科部の研究内容

1. 育成したい国語の資質・能力と日常生活や社会生活とを関連させた義務教育期間のカリキュラム構成

- (1)各学年の実態や発達段階に応じた言語活動を設定し、9年間を見通した系統的なカリキュラムをデザインすることで、国語科で育成を目指す資質・能力が児童生徒の言葉や表現として段階的に表れるようにする。

2. 国語を学ぶことに必要感をもち、自己課題の設定や自己省察を行う場の位置付け

- (1)言語活動と身に付けたい国語の力が関連している単元・単位時間の導入。
(2)身に付けたい国語の力を意識した自己課題の設定や自己省察を行う場の設定。

3. 児童生徒が行っている言語活動の状況に応じた適切な個別の指導と評価

- (1)児童生徒自身が、言語活動の状況(児童生徒の問い、成果・課題等)を自己省察し、学習調整していくための教師による対話を通じた形成的評価と個別指導

言葉と真摯に向き合う児童生徒の育成

松野紗久羅 紺谷篤 松原圭史 江口紳一郎

要約

生成A Iや先端I T技術の進展により、情報収集や文章作成は効率化した一方で、言葉を吟味する姿勢の弱まりやSNSトラブルなどの課題が生じている。そこで本校国語科は、「こと」「こころ」「ことば」を三位一体で捉えることを重視し、研究主題を「言葉と真摯に向き合う児童生徒の育成」と設定した。これは、言葉の意味や価値を大切にし、自ら考え、他者と対話しながら理解と表現を深める力の育成を目指すものである。研究では、①国語の資質・能力と日常生活・社会生活を関連付けた9年間のカリキュラム構成、②学ぶ必要感を生み出す言語活動と自己課題の設定・自己省察の場の設定、③学習状況に応じた個別指導と評価、の3点を柱とした。具体的には、「どう生きる科」と国語科を関連付けた「読むこと」の系統化、OPPA表を活用した自己調整学習、対話や形成的評価を生かした個別支援を実践した。その結果、生徒が学ぶ意義を実感しながら言葉を深く捉え、自ら学びを調整して探究する姿が見られた。本研究は、生成A I時代においても人間にとって本質的な「言葉と真摯に向き合う児童生徒の育成」に向けて実践してきた挑戦の足跡である。

【キーワード】 言語活動の充実 OPPA表 言葉による見方・考え方

1. はじめに（今日的課題から）

生成A Iを含めた先端I T技術の進展は、私たちの日常生活や社会生活を大きく変えた。例えば、様々な活動は短時間で尚且つ効率的に行うことができるようになり、分からない言葉があれば直ぐに調べることも、整った文書を一瞬で作成することも可能となったのである。一方で、調べた内容が不確実なものであったり作成した文書が自分の意図とは異なって相手に伝わるという齟齬が生じたりすることも少なくはない。教育現場においても同じである。一つの例として、調べたことをレポートにまとめる活動では、学習者は直ぐに調べることが可能になった分、コピー&ペースト（いわゆるコピペといわれる行為）を活用し、情報収集から文章作成までの時間を短縮することにつながっている。しかし調べた内容の理解、そもそもその内容が正しいものであるのかという精査ができていないことが多い。このように情報活用が短時間で効率的になった分、児童生徒の言葉に対する思慮深さ

がなくなっているのではないかと感じるようになってきた。これは、日常生活や社会生活において大きく問題となっているSNSトラブルにもつながる。伝える側と受け取る側の両側面における言葉への思慮深さがなく、相手を傷付け、勘違いを生み、互いの関係性を悪化させてしてしまうのである。

このことから生成A Iを含めた先端I T技術の進展が加速している今だからこそ「言葉に対して思慮深くあれる」そんな児童生徒を育てていくことが大事になっていくのではと考える。

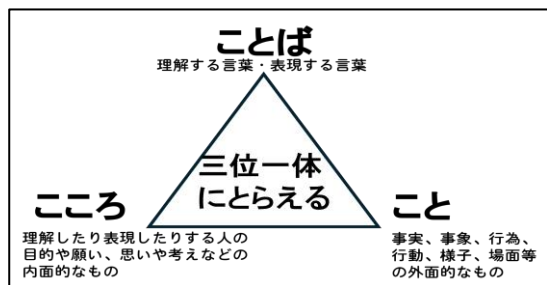
2. 国語科部の捉え

（1）国語科部が大切にしていること

本校国語科では、「こと（事実・出来事）」

「こころ（思いや考え・感情）」「ことば（理解・表現）」を切り離して捉えるのではなく、三位一体のものとして理解し表現することを大切にしている。国語の力は、この三者

を緊密に結び付けながら学ぶことで育つと考える。



【図1「こと」「こころ」「ことば」を三位一体に】

理解においては、文章や言葉に表された「こと」とその背後にある「こころ」を「ことば」で捉えられるようにする。また「こころ」の表現から語り手や登場人物の状況や出来事、すなわち「こと」を理解することを重視する。さらに、それらがどのような「ことば」によって表現されているのかを味わい、その表現の工夫や効果に目を向けることが重要である。表現においては、自分が経験したり見聞きたりした「こと」を伝えるだけでなく、そこにある思いや願いなどの「こころ」を込めることを大切にする。また、「こころ」を表す際には、それを生み出した出来事や背景である「こと」も具体的に示す。そして、「こと」と「こころ」の結び付きを最も的確でふさわしい「ことば」で表現することが求められる。

このように「こと」「こころ」「ことば」を一体的に捉えて理解・表現することで、表面的な読み取りや形式的な表現にとどまらず、確かで豊かな理解と表現が可能となる。本校国語科は、この力こそが人と人をつなぎ、生成 AI やデジタル技術が高度に発達する時代においても変わることのない、人間にとって本質的で重要な営みであると考えている。

（２）国語科学習の本質から

「学習指導要領解説国語編」に記載されている教科の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に

表現する資質・能力を育成すること

は、国語科学習の本質であると捉えている。

学習指導要領が示す「言葉による見方・考え方を働かせ、国語で正確に理解し適切に表現する」という教科目標は、本校国語科が重視する「こと」「こころ」「ことば」を三位一体に捉える考え方と一致している。

学習指導要領	本校国語科
言葉による見方・考え方	「こと」「こころ」「ことば」の関係を捉える
正確に理解する	「こと」と「こころ」を的確に「ことば」で捉える
適切に表現する	「こと」と「こころ」をふさわしい「ことば」で表す
言語活動を通して	読む・書く・話す・聞く活動の中で三者を往還する

すなわち、理解においては「こと」から「こころ」を読み取り、それらを表す「ことば」の働きに着目すること、表現においては「こと」と「こころ」を結び付けながら最も適切な「ことば」を選択することが求められる。この過程こそが「言葉による見方・考え方を働かせることであり、国語科における資質・能力の育成の中核をなすものである。

３．主題設定の理由

先述したように、現代社会は多様な価値観や情報があふれ、SNSや生成 AI などの発達により、誰もが容易に情報を発信し受信できる時代となっている。その一方で、言葉の意味や背景を十分に吟味しないまま受け取ったり発信したりすることで、誤解や対立が生じる場面も少なくない。このような社会においては、言葉を表面的に捉えるのではなく、その意味や働きを深く考え、相手や状況に応じて適切に使う力が求められている。

また、中学校学習指導要領国語編では、「言葉による見方・考え方を働かせながら、言葉を通して理解したり表現したりする資質・

能力の育成を目指している。そのため国語科では、単に知識や技能を習得するだけでなく、言葉と真摯に向き合い、自らの考えを形成し、他者との対話を通して考えを深めていく学びが重要となる。

本校の生徒の実態を見ると、文章や資料から必要な情報を取り出すことはできるものの、言葉の選択や表現の意図を吟味したり、記述されていない部分を想像しながら読み深めたりすることに課題が見られる。また、自分の考えを表現する際にも、根拠を明確にしたり、より適切な言葉を選んだりする姿勢にはさらなる向上の余地がある。

そこで本校国語科では、「言葉に真摯(真摯: 真面目で、ひたむきなこと)に向き合う営みを大切にできる児童生徒を育てたい」と強く願い、研究主題を以下のように設定した。

言葉と真摯に向き合う児童生徒の育成

「言葉に真摯に向き合う児童生徒」とは、言葉の意味や価値を大切にしながら、書かれていることや語られていることを丁寧に読み取り、自ら考え、他者と交流しながら理解を深め、適切に表現しようとする児童生徒であると捉える。そして、言葉に対する感性や思考力を高める学習活動を通して、生涯にわたって豊かに言葉を用い、よりよい社会の形成に参画できる児童生徒の育成を目指している。

4. 「発見力」について

国語科では発見力を以下のように設定した。

言葉による見方・考え方を働かせながら、話したり聞いたり書いたり読んだりして言葉を吟味する力

私たちは、発見力を単に言葉の意味を知ったり、正誤を判断したりする力ではなく、「なぜこの言葉が使われているのか」「別の言葉ではどうなるのか」「言葉同士はどのようにつながっているのか」といった視点から、言葉の意味や働き、使われ方を多面的に考える力と

捉えた。児童生徒は、言葉に着目し、それを吟味することで、これまで気付かなかった言葉の働きや表現の工夫、言葉同士の関係を見出す。そして、その発見を通して、自分の理解や表現を見直し、更新していくことができる。つまり、国語科における発見力とは、「言葉に着目する」「吟味する」「理解や表現を更新する」という学びの過程を支える資質・能力であり、自ら問いをもち、学びを深めていく自走する学習者の基盤となる力である。

5. 研究仮説・研究内容について

次に示すのは、研究主題である「言葉と真摯に向き合う児童生徒の育成」を実現するために立てた研究仮説である。

【研究仮説】
育成したい国語の資質・能力と日常生活・社会生活、どう生きる科とを関連させた義務教育期間の国語科カリキュラムを構成する。次に単元や単位時間の言語活動を通して、児童生徒が国語を学ぶことに必要感をもち、自己課題の設定やそれに対する自己省察の場を位置付ける。そして児童生徒が行う言語活動の現在の状況に応じた適切な個別の指導と評価があれば、言葉に対して真摯に向き合う児童生徒を育成することができるだろう。

そして、研究仮説を3つの以下に示す研究内容に分けて、実践・検証した。

【研究内容1】
育成したい国語の資質・能力と日常生活や社会生活とを関連させた義務教育期間のカリキュラム構成
【研究内容2】
国語を学ぶことに必要感をもち、自己課題や自己省察を行う場の位置付け
【研究内容3】
児童生徒が行っている言語活動の状況に応じた適切な個別の指導と評価

6. 研究内容に関わって

(1) 研究内容1に関わって

【研究内容1】
育成したい国語の資質・能力と日常生活や社会生活とを関連させた義務教育期間のカリキュラム構成

昨年度本校では、校内研究主題「自走する子の育成」を受け、国語科において「言葉に真摯に向き合う探究者の育成」を目指した。児童生徒が自走する学習者となるには、①「学ぶ意味や意義」の明確化と、②「本質的で系統的な指導と評価」の充実が不可欠である。1年目は話すこと・聞くこと、書くことの表現領域を中心に、本校の特色である「どう生きる科（総合的な学習の時間）」との関連を図った。「どう生きる科」の探究過程で生じる「伝えたい」「報告したい」という必然的な発信欲求と国語科の指導を重ねることで、表現することの「学ぶ意味や意義」を生み出すことができた。一方で、「読むこと」領域におけるカリキュラム構成には課題が残った。表現領域における発信欲求の背景には、必ず探究対象や他者の考えを深く読み解く「情報収集・吟味」の過程が存在する。しかし、従来の「読むこと」の学習は教材文の分析に終始しやすく、「どう生きる科」での探究に必要な情報を獲得・再構築するための「必然性のある読書・読解」へと結び付いていなかった。自走する探究者を育てるためには、表現領域だけでなく「読むこと」領域においても、「何のために、どのように読むのか」という意義と系統性を整理する必要がある。

そこで、2年目となる今年度は、「読むこと」領域における「どう生きる科と国語科をつなぐ系統表」の構築と実践検証を行う。具体的には、「どう生きる科」で生じる探究上の問い（「もっと詳しく知りたい」「意見の根拠を探したい」「多角的な視点で検証したい」等）を起点とし、その解決に必要な国語科の「読む

こと」の資質・能力（構造と内容の把握、精読、精査・検証、考証など）を関連付ける。

学年		第2学年
どう生きる科	※第一・二学年は生活科	生活科「大きくそだてわたしの野さい」の学習において、児童は自分が育てる野菜を決め、種を植えた。いつ水をあげるのか、どのタイミングで、支柱を立てるのかなど、観察を続けていくうちに、野菜を育てるうえで必要となる世話が出てきた。そこで、児童は自分の育てている野菜がどのような順番で世話をしていくとよいのか、なぜ、それがいいのかを記録を残し、来年度の2年生に伝えたいという願いをもちた。
どう生きる科×国語	相手	同じ学級の仲間・下級生
	目的	大きくて元気な野菜を育てたい
	形態	説明的な文章・読書
	教材	たんぽぽのちえ（光村図書）

【図2 どう生きる科と国語科（読むこと領域）をつなぐ系統表①（抜粋）】

構築にあたっては、1年目の知見を生かし、教員の負担感を考慮した汎用性の高いカリキュラムを目指す。網羅的に結びつけるのではなく、探究の深化に真に必要な「読む」場面を精選・厳選し、9年間の系統性を視覚化した指導計画を作成する。

「どう生きる科」の探究過程で生じる情報収集や思考の必要性和、国語科「読むこと」領域の指導事項を関連させた系統表を運用し、授業デザインを構築・実践すれば、児童生徒は「読む意味や意義」を実感しながら文章や資料に真摯に向き合い、主体的に読みを深める姿へと変容すると考える。そこで、9年間の「読むこと」系統表に基づき、各学年で重点単元を設定し、実践する。検証にあたっては、単元前後の児童生徒の読む目的意識の保持、情報選択・精査の姿、読解の質の高まりの変容を見取る評価規準を整理し、指導計画の効用と汎用性について検証を深める。

(2) 研究内容2に関わって

【研究内容2】
国語を学ぶことに必要感をもち、自己課題や自己省察を行う場の位置付け

児童生徒が言葉に真摯に向き合い自走していくためには、児童生徒にとって国語を学ぶ

ことに必要感(自分自身が「これが知りたい」「これをなんとかしたい」と切実に感じる心)がなければならない。では、その必要感とはどのようにして生まれるものなのか。国語科では、単元末の言語活動の位置付けが重要な要素であると考えた。言語活動の独自性や日常生活との親和性を高めることで、必要感を高めることとした。しかし、言語活動が設定されただけでは、「活動あって学びなし」という状況に陥ってしまう危険性もある。児童生徒にとって、ただの国語的レクリエーション活動としての楽しさが感じられるだけに留まってはならない。もちろん、活動をする中で無意図的に国語に関する資質能力が高まることはあるかもしれない。しかし、我々が目指すべきところは、児童生徒自身が、その活動においてどんな力がつくのか、またはどんな力をつけたいのかを明確にした上で、国語の学びに向き合っていくことである。

そこで本研究では、児童生徒が単位時間のゴールの姿を描き、学習の見通しを立てる際、活動目標だけではなく、単元の指導事項、つまり、どのような国語の力を身に付けるのかまで含めて考えられるようにする工夫を行った。そうすることで、単元の終末の児童生徒は、単なる活動目標の達成からくる達成感だけでなく、自らの国語の力の高まりによる充足感も強く感じることができるようになるだろうと考えた。そしてそれが授業から日常生活へとつながり、積み重なることで、言葉に対して真摯に向き合う児童生徒を育成することにつながると考えたのである。次に示すのは、前述に関わる実践例である。

〈実践例1〉

【研究内容2】(1)言語活動と身に付けたい国語の力が関連している単元・単位時間の導入
学 年：9年生
単元名：孔子に学ぶ考え方・生き方
教材名：学びて時に之を習ふ—論語から

まず、単元末の言語活動には、「教科書に載っていない別の孔子の言葉から強く共感する

もの選び、自分の座右の銘を見つけること」を設定した。自我が確立していく不安定な状態の中で、自分の将来の生き方について真剣に考え始める9年生であるからこそ、論語に記されたメッセージが、自分の人生の道しるべになるだろうと考えたからである。このような言語活動の設定によって、必要感を高めることを狙った。

また、この単元では、知識及び技能(3)「長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うこと。」が指導の重点となっている。そこで、単元の導入時には「今までの人生の中で自分を救ってくれた言葉はありますか?」と問い、いくつかの言葉(名言など)をイメージさせることにした。そのようにすることで、言葉の影響力を再認識させ、その上で、また新たに自分を励ましたり勇気づけたりしてくれる言葉に出会えるかもしれないと伝えることで、言葉(今回は長く親しまれている言葉)を引用して使う力が必要であると実感させることを狙った。

・現代を生きる私たちにもすごく刺さるメッセージばかりで驚きました。他の言葉も調べてみようと思います。

・テストで点が低かった時、「単元が…」と一言で周りのせいにするのがよくあった。今日見つけた言葉のように、今後はそれをしっかり「自分のせい」と捉え、次までにもっと自分の能力を高められるようにしたい。

※生徒の振り返りの一部を抜粋

上記のような記述から、この言語活動の設定は必要感をもたせるために効果的であったといえる。また、生徒に指導事項を意識させること(今回は長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うこと)を生み出すためにも効果的であったといえる。

〈実践例2〉

【研究内容2】(2)身に付けたい国語の力を意識した自己課題の設定や自己省察を行う場の設定
学 年：8年生
単元名：親しみ、味わい、創り出そう
教材名：短歌に親しむ・短歌を味わう

単元末の言語活動には「オリジナルの短歌を作ってコンクールを開くこと」を設定した。

生徒にとってそれほど親しみのない短歌を自分ごととして捉え直し、教科書の短歌を学ぶ必要性を生むためである。また、「語感を磨き語彙を豊かにすること」を全体の目指す姿として共有した。

オリジナルの短歌を作るまでの過程において、単位時間の自己課題と自己省察を行えるよう、OPPA表を活用した。

【図3 自律的に学ぶためのOPPAシート】

OPPA表とは、学習の変容や思考を1枚の用紙に記録・可視化するものであり、児童生徒が自分で学ぶ力を育てること、および教師がそれを見て授業をより良く改善することを狙って用いている。計画→実行→振り返り→計画→実行…という営みがひと目で見て取れるようになっている。これにより児童生徒が自身の思考の足跡を残すとともに、単元の中での学びの高まりが実感できる。本校の国語科では、「自己課題」「メモ」「振り返り」を基本項目として位置付けているが、発達の段階、言語活動の特徴に応じて、項目の数や内容を変更して工夫することも可能である。以下に「自己課題」「メモ」「振り返り」の中を書く内容を示す。

「自己課題」
単元を見通したときに、本時どんなゴールの姿を描くのか、その姿に到達するためにどんな国語の力（観点）を意識して学習するのかを書きまとめる。（「自分事」で学びの見通しをもつことができる）
「メモ」
「自己課題」を基本に、出来事や他者から自己の学び方を改善できるきっかけ（方法）を得た時にそのことを書きまとめる。

また「知識及び技能」に関わることで新たな発見があったときに自分の言葉でまとめる。（概念的理解、方略的適用につながる）

「振り返り」

「自己課題」を基に本時の学び方、学んだ内容はどうかを振り返り、次時の学び方（見通し）について書きまとめる。また、新たに次回考えてみたいことなど、現在の思考を書きまとめる。（自己省察、自己学習調整につながる）

なお、単元の学習の進み方に応じて、個人課題を変更・修正することも可としている。

このシートを活用しながら、「ラムネ」をキーワードに作品を作っていた女子生徒の実例を挙げる。彼女は、まず以下のような上の句を書き上げた。

ラムネ瓶 カランコロンと 夏を恋う

下はOPPA表の振り返りである。

・自分が好きな「ラムネ」をテーマに涼しい感じを表現したくて書き始めました。「カランコロン」をカタカナにすることで、特有のあの夏らしい音が表現できたと思います。自分でもよくできたと思います。でも、音より瓶の見た目のほうが涼しい感じが表せる気がしてきました。

ひらがなやカタカナの印象の違いに気づき言葉をよく考えて選んだことが分かる。次の時間に彼女が修正した上の句が以下である。

青の下 共に汗かく ラムネ瓶

前時の振り返りで書いていたように、今度は見た目にフォーカスすることで、また違った味わいを生み出すことに成功している。

この単元では、知識及び技能（1）エ「抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。」が指導の重点となっている。特に「語感を磨き語彙を豊かにすること」を全体の目指す姿として共有した。彼女が作った2パターンの上の句や、シート内の振り返りの文章の中には、まさに語感を磨いたり、意図をもって言葉を選んだりしていることがよく表れている。

よって、OPPA表を用いたことは、自己課題や自己省察を促すことに一定の効果があったといえる。

(3) 研究内容3に関わって

【研究内容3】

児童生徒が行っている言語活動の状況に応じた適切な個別の指導と評価

本研究では、人物の心情を読み取る学習活動において、教師が形成的評価を行いながら適切な指導・援助を行うことを重視している。形成的評価とは、教師が対話を通して子どもの思考過程を見取り、子ども自身が「何ができていて、何が課題で、次に何をすればよいか」を自覚できるよう支援する指導である。

例えば、人物の心情を読み取ることに自信がなく、なかなか考えを書き出せない児童生徒に対しては、「人物のしたことや言ったことに線を引いてみよう」「『気のない返事をした』時はどんな気持ちだったと思う？」などと声をかける。心情の読み取り方に不安を感じている様子を見取り、まずは人物の行動や発言を根拠に考えるという基本的な読み取り方を示しながら生徒の様子を見届ける。

【児童生徒】

(何も書けないでいる)

【教師】

心情の読み取り方が分からない。それとも本文が長いため、どこから手を付けるか迷っている。(形成的評価)

↓

「人物のしたことや言ったことに線を引いてみよう。そこからどんな気持ちを読み取れる？1つ一緒に考えてみようか。」

(指導援助)

また、人物の心情を場面ごとに読み取ることができた児童生徒には、「この物語の山場はどの場面だろう」と問いかける。さらに、「教科書の○ページに心情の変化を図で表した例が

載っているよ。参考にして図に表してみると山場がはっきりするかもしれないね。」と助言することで、物語全体を通した心情の変化に着目させ、場面の展開をより深く捉えられるよう支援した。

さらに、情景描写を根拠に人物の心情を読み取った児童生徒に対しては、「この描写からそんな心情を読み取ったんだね。○○さんも同じ描写から心情を読み取っていたよ。交流してみたらどうかな。」と働きかける。描写を根拠として考えられていることを認めつつ、他者との交流によって考えを広げたり深めたりできるよう声掛けを行った。

【児童生徒】

～から人物の心情が読み取れたぞ。でもこの解釈であっているのかなあ。これってどういう意味だろう。

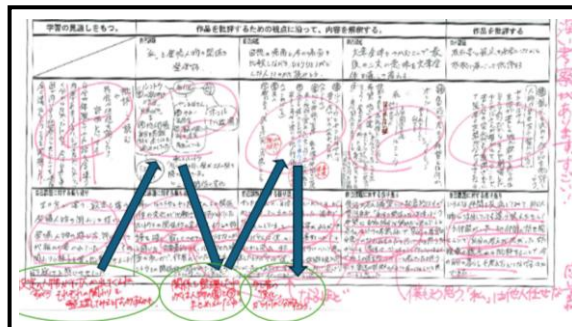
【教師】

言葉を根拠に心情を読めている。同じ言葉から読み取っている子とつないで、考えに自信をもたせたり、考えを広げたりしよう。(形成的評価)

↓

「この描写からそんな心情を読み取ったのだね。○○さんも同じ描写から心情を読み取っていたよ。交流して考えを広げてみたらどうかな。」(指導援助)

また、OPPA表を活用した形成的評価においても、教師は児童生徒の思考の状況を見取りながらフィードバックを行う。



図のように、毎時間の学習状況をOPPA表で見取り、自己課題に対する学習の達成度

を評価したり、課題解決に向けて十分に進まなかったときには援助をしたりしている。

このように、形成的評価は単にできた・できないを判断するものではなく、教師が対話を通して学習状況を見取り、一人一人に応じたフィードバックを行うことで、児童生徒の自己調整的な学びを支える役割を果たすことができるといえる。

7. 成果と課題

【成果】

○「どう生きる科」の探究で生まれた「伝えたい」「報告したい」という思いを国語科の学習につなぐことで、児童生徒が「相手に分かりやすく伝えるには、どのような構成や表現がよいか」など、探究の目的に応じて国語科の学びを必要なものとして捉える姿が見られた。(研究内容1)

○言語活動を生活や価値観と結び付けることで、国語の学びを自分事として捉える必要感を生み出し、OPPA表で自己課題と自己省察を繰り返すことで、自分の表現や学び方を自ら修正する姿につながった。

(研究内容2)

○児童生徒の学習状況に応じて、仲間との交流や個別指導を意図的に位置付けることで、新たな読みの視点を獲得し、自己課題を設定し直したり、学習方法を調整したりするなど、自ら学びを進める姿につながった。(研究内容3)

【課題】

●「読むこと」領域では、「どう生きる科」で必要な情報を得る場面と国語科の学習との関連が十分でなく、教材文の内容を捉えることにとどまってしまうため、「何のために読むのか」という目的意識をもたせ、探究に必要な知識・技能を獲得できる「読むこと」の学びとして位置付ける

必要がある。(研究内容1)

●自己課題や自己省察を行うだけでなく、身に付いた国語の力や学び方の変化を自覚し、次の学びに生かすことができるよう、自己省察の質を高める必要がある。(研究内容2)

●児童生徒一人一人の自己課題や学習状況に応じて、次に必要となる読みの視点や学習方法を的確に見取り、適切な指導・援助につなげるための形成的評価の視点をさらに整理する必要がある。(研究内容3)

7. おわりに

国語科では、児童生徒が言葉と真摯に向き合い、自ら学びを進めていくことができるようにすることが大切であると考えています。そのためには、国語を学ぶ必然性を生み出し、身に付けたい力を自覚しながら、自ら学びを調整していくことが大切です。そして、一人一人の学びを丁寧に見取り、「知りたい」「伝えたい」「もっと考えたい」という思いを学びへとつなげていきます。

今後も、児童生徒一人一人の学びの姿を丁寧に見取りながら、国語科で育成を目指す資質・能力と実生活とのつながりを大切に、「言葉に真摯に向き合う児童生徒」の育成を目指していきます。

<参考・引用文献>

- ・白井俊(2020年)『OECD2030プロジェクトが描く教育の未来』ミネルヴァ書房
- ・鹿毛雅治(2007年)『子どもの姿に学ぶ教師』教育出版
- ・鹿毛雅治(2019年)『授業という営み』教育出版
- ・ナオミ・S・パロン(2025年)『書くことのメディア史』亜紀書房
- ・今井むつみ(2024年)『何回説明しても伝わらないはなぜ起こるのか?』日経B P
- ・今井むつみ(2024年)『学力喪失—認知科学による回復への道筋』岩波新書
- ・石井英真(2015年)『今求められる学力と学びとは』日本標準
- ・石井英真(2020年)『授業づくりの深め方』ミネルヴァ書房
- ・石井英真(2023年)『学習評価深化論』図書文化社
- ・OECD 教育研究革新センター(2013年)『学習の本質』明石書店
- ・OECD 教育研究革新センター(2023年)『こころの発達と学習の科学』明石書店
- ・堀哲夫(2019年)『新訂一枚ポートフォリオ評価OPPA』東洋館出版社

【公開Ⅰ】8年2組 国語科学習指導案

南舎3階 8年2組教室 紺谷 篤

- 1 単元名 令和版「徒然草」を書こう～法師のプロファイリングを通して～
教材名 「仁和寺にある法師（いにしえの心を訪ねる）」

2 指導の立場

（1）教材について

『徒然草』は、今から700年前の鎌倉時代末期に、兼好法師によって書かれた全244段（序段と243段の本文）から成る随筆である。その中でも今回扱う「仁和寺にある法師」は、石清水に参った仁和寺の僧の思い込みによる失敗談と、「何事にも案内役は必要である」という教訓を説いた物語となっている。現代を生きる私たちにも、思い込みや「こうすればよかった」と後悔することはよくあることであり、生徒たちにとって、古典に表れた考え方を自分事として捉えやすい教材である。

また、古典は国語独自のコンテンツであり、過去から現在・未来を考えることで、多くの発見を見出せる教材でもある。

（2）児童生徒について

生徒は今年度、『枕草子』と『平家物語』の2つの古典作品を学んでいる。『枕草子』では清少納言の書き記した内容に共感できる部分が多くあることを実感し、作品が成立した平安時代においても現代と同じような感覚があったことを学んでいる。さらに、『平家物語』では、現代の感覚では理解しにくい、当時ならではの「武士らしい考え方」があったことも学習しており、春先よりも古典への関心は高まっている。

これまで学習した教材と比べ、ユーモラスな面を持ち合わせた「仁和寺にある法師」での学習を通して、古典に表れた考え方を自分事として捉えられるようにすることで、より一層古典に親しませたい。

（3）指導について

本単元は、古典をさらに身近なものとして捉え、「仁和寺にある法師」に表れた法師の言動や教訓が自分の経験と対比され、文章に表れたものの見方や考え方を自分の生き方に生かすことをねらいとする。そのために、単元出口の表現活動として「令和版『徒然草』を書こう」を設定し、兼好法師の書き方を参考にしながら、自分なりの作品を書く活動を設けた。

本時は、令和版『徒然草』を書く前段の活動として、「本当に必要なのは『先達』なのか。」という問いをきっかけに、作品中の法師のプロファイリングを行う。限られた情報を元に、法師の人物像を読み解いていく活動は、生徒の主体性につながると考える。

一読すると何の変哲もなかった表現が、思わぬ形で人物像を読み取る手掛かりになっていく経験と、兼好法師の書き方を基にして自分の経験と教訓を書き表す活動を通して、生徒の自走する姿を生み出したい。

3 研究に関わって

【研究内容1 育成したい国語の資質・能力と日常生活や社会生活とを関連させた義務教育期間のカリキュラム構成】

これまで生徒たちは、数々の古典作品に触れることで、現代を生きる自分たちにも共感できる部分があることに気付いている。本単元では、その「共感できる部分」に加え、新しく「教訓」に出会うことになる。また、単元末に令和版『徒然草』を書く活動を設定することで、「教訓」に焦点を当てることとする。その「教訓」は、単なる共感に留まらず、現代を生きる生徒たちの日常生活をよりよいものにする糧となるだろう。そして、生徒たちの生活と古典との親和性が高まり、古典がより身近なものになる。また、今後の授業や読書の中で古典作品に出会った際、「日常生活との関連性はないか」という視点で作品を読み深められるようになることを考える。

【研究内容2 国語を学ぶことに必要感をもち、自己課題や自己省察を行う場の位置付け】

自分の人生経験を基に教訓を述べるという単元出口の表現活動の設定により、生徒が古典を自分事として捉えられるようにする。また、OPPAシートを用いて、単位時間の自己課題と自己省察を行えるようにする。単元の初めに全5時間分の自己課題を立てる。1時間終わる度に、次の課題を見直し、適宜修正する。修正する際は赤ペンで行うようにすることで、単元終了時に振り返ったときに学びの跡が残るようにする。

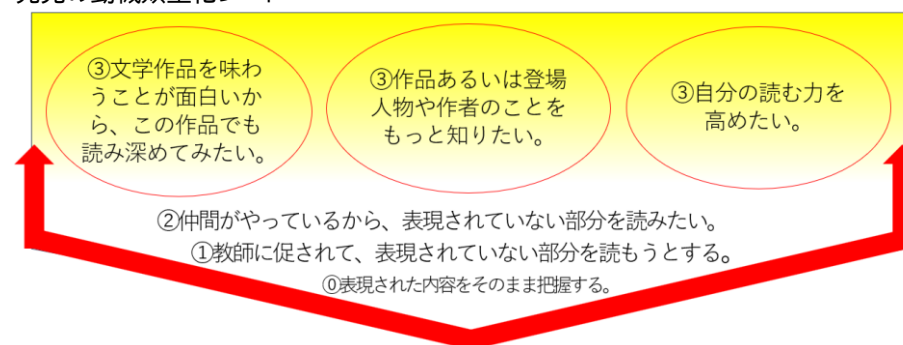
【研究内容3 児童生徒が行っている言語活動の状況に応じた適切な個別の指導と評価】

研究内容2で触れたOPPAシートを毎時間教師が集め、生徒の思考を見取ることとする。そのようにシートを活用することで、生徒の個々の気付きや躡きを把握し、授業中の指導に生かす。また、生徒のタイムリーかつリアルな思考をつかむことができるため、考え方を次時に紹介したり、コメントを入れたりするなど、適切な評価を行う。

4 本時の、自走に必要な資質・能力「発見力」に関わって

表出する場面	記述を手掛かりにプロファイリングするとき
表出する行動	記述を基に表現されていない空白部分を顕在化させ、表現されている内容と整合性を図りながら読み深める姿

発見の動機類型化シート



5 単元指導計画

単元で育む資質・能力		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
① 現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、徒然草に表れたものの見方や考え方を知っている。(3) イ	① 「読むこと」において、徒然草を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、他者の考えと対比することで自分の考えを広げたり深めたりしている。C (1) オ	② 学習を進める上で大切なことが分かり、自分の学習の進め方を決定し、進んで作品を読もうとしている。 ③ 積極的に徒然草に表れたものの見方や考え方を知り、学習の見通しをもって、自分の考えを説明しようとしている。
時	学習のねらいと主な学習活動	評価規準
1	<u>学習の見通しをもとう。</u> 学習を進める上で大切なことが分かり、自分の学習の進め方を決定し、進んで作品を読む。 ・徒然草や兼好法師について知る。(序段を入れて 244 段) ・令和版『徒然草』を書くために、何が書かれているかや、どのような書かれ方をしているかを読み取っていくことを確認する。 ・「徒然草」の序文を読み、学習の見通しをもつ。 ・「仁和寺にある法師」(52 段)の内容を読み取り、この章が訓話のような形になっていることを知る。	学習を進める上で大切なことが分かり、自分の学習の進め方を決定し、進んで作品を読もうとしている。[学びに向かう力、人間性等①] <u>OPPAシート・活動の様子</u> ・ここでは、OPPAシートの各単位時間の自己課題から、何に意識して読もうとしているかを確認する。
2	<u>「五十二段」には何が描かれているのか。</u> 現代語訳を基に本文に書かれている内容を読み取る活動を通して、法師がいくつかのミスを犯していることに気付き、この話のおもしろさが法師の人間性によって生まれていることを捉えることができる。 ・「仁和寺にある法師」(52 段)の内容を読み深め、この章が失敗談＋教訓の形になっていることを知る。 ・法師の人間性がこの話のおもしろみにつながっていることに気付く。 ・法師の言動について、疑問に思った個所を共有する。→本当に必要なのは「先達」なのか。	現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、徒然草に表れたものの見方や考え方を知っている。[知識・技能①] <u>OPPAシート</u> ・ここでは、内容を正確に読んでいるかと、話のおもしろみがどこにあるかが分かっているかを確認する。
3 (本時)	<u>本当に必要なのは「先達」なのか。～法師のプロファイリングを通して～</u> 言動の背景を調べたり想像したりする活動を通して、強すぎる信仰心が故に他者を頼ることをしない法師の人物像に気付き、法師に足りなかったものを説明することができる。 ・法師の言動を手掛かりに、人物像の解像度を上げる。 ・法師に本当に必要だったものを考える。→人を頼る、人を「師」とする謙虚さ。 ★現代の価値観で作品を読む。	「読むこと」において、徒然草を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、他者の考えと対比することで自分の考えを広げたり深めたりしている。[思考・判断・表現①] <u>OPPAシート</u> ・ここでは、記述を基に表現されていない部分を顕在化させ、表現されている内容と整合性を図りながら人物像を読めているかを確認する。
4	<u>なぜ最後の教訓が「先達はあらまほしきことなり」なのか。</u> 「先達はあらまほしきことなり」に込められたメッセージを考える活動を通して、この教訓が単なる行動に対するメッセージではなく法師の人間性に向けられたものであることに気付き、人物像と教訓の関係を理解することができる。 ・第3時までで読み解いた法師の人物像と、「先駆者がいてほしい」という最後の教訓のズレを基に、教訓の意味を考える。★当時の感覚を想像して作品を読む。 →法師は周りの人をいつでも「師」にできた。しかし、偏狭さが原因でそれができなかった。そんな頑なな法師の姿勢に対しての批判も含めて、最後の教訓がある。	「読むこと」において、徒然草を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、他者の考えと対比することで自分の考えを広げたり深めたりしている。[思考・判断・表現①] <u>OPPAシート</u> ・ここでは、読み取った人物像と教訓の関わりを正しく読み取れているかを確認する。
5	<u>令和版『徒然草』を書こう。</u> 「仁和寺にある法師」の書き方に倣って、自分の経験と結び付けて考えをまとめることができる。 ・「仁和寺にある法師」は、法師の実例の後、教訓が語られるという構成であることを確認する。 ・自分の経験と結び付けて考えをまとめる。 ・令和版徒然草を作ってみた感想を交流し、古典を身近に感じることや、言葉に向き合うことの大切さを共有する。★当時の文章と感覚を現代に落とし込む。	積極的に徒然草に表れたものの見方や考え方を知り、学習の見通しをもって、自分の考えを説明しようとしている。[学びに向かう力、人間性等②] <u>OPPAシート</u> ・ここでは、「仁和寺にある法師」に倣って自分の経験と結び付けて考えをまとめることができているかどうかを確認する。

6 本時のねらい

言動の背景を調べたり想像したりする活動を通して、強すぎる信仰心が故に他者を頼ることをしない法師の人物像に気付き、法師に足りなかったものを説明することができる。〔思考力、判断力、表現力等C（1）オ〕

7 本時の展開（3/5）

生徒の学習活動	研究に関わって												
1 OPPAシートを見返す。（自己課題を確認する） 全体の思考…本当に必要だったのは「先導者」なのだろうか。法師がどんな人だったのかをもっと考えたい。 個の思考…どうして法師は一人で参詣したり、山に向かう人々に尋ねなかったりと、他の人と関わることをしなかったのだろう。 2 自ら学習の進め方を決定し、取り組む。★発見力の表出場面 〈(例) A さんの考え〉 <table border="1" data-bbox="129 518 1545 718"> <tr> <td>疑問に思ったところ</td><td>① どうして1人で行ったのか。 ② どうして山の上に行く人が気になったのに何も聞かなかったのか。</td></tr> <tr> <td>自分の考え</td><td>根拠となる記述…「ただ一人、徒歩より詣でけり」「かたへの人にあひて」 わかること…話を聞いてくれる仲間はいから、友達がいないわけではない。 考えたこと…調べてみたら乗合船でいくこともできたらしい。仲間もいるのにあえて1人で歩いて向かっているから、「1人で成し遂げる」ことこそ参詣だと思っていたのではないか。</td></tr> </table> ・生徒同士で交流する。 ①自由な推測になりすぎないように、根拠・わかること・考えたことを明確にする。 <table border="1" data-bbox="129 790 1545 1268"> <tr> <td>A さん</td><td>調べてみたら、当時は石清水八幡宮にお参りに行くための乗合船があったみたいで、それでいくこともできたらしいよ。だからきっと、1人で歩いていくことも含めて参詣だと思っていたのではないかな。 帰ってから周りの人に自慢気に話していたことも考えると、人見知りではなさそうなんだけど、どうして山の上に向かう人に何も尋ねなかったんだろう。</td></tr> <tr> <td>B さん</td><td>他の人に尋ねなかったのは、自分を信じすぎていたからではないかと思ったよ。帰ってから自慢するかのようになり、周りの人に話をしていて様子から、こうと決めたらそれを信じすぎて、周りの意見を取り入れない感じもするし。やっぱり、自分で誰かに尋ねていけばよかったよね。先達がいなくても、尋ねてさえいけば、間違いは起きなかった訳だし。</td></tr> <tr> <td>C さん</td><td>石清水八幡宮は当時すごく有名だったみたいだから、「かたへの人」つまり仲間が法師の話聞いたとき、きっと違和感を抱き、勘違いの可能性に気付いていたと思う。あまりにも誇らしげに語る姿に呆れかえってしまい、何も言う気にならなかったのかもしれない。</td></tr> <tr> <td>D さん</td><td>この法師は、勘違いに気付くことのできるタイミングが多々あったけど、自分を信じすぎる性格のために、それを逃してしまったよね。先導者よりも、そもそも法師自身が誰かを先導者にする、誰かに教えを乞う心を持つことが必要だったと思う。</td></tr> </table> 3 交流した法師の人物像をもとに、法師に本当に必要だったものについて考える。 →法師は周りの人をいつでも「師」にできた。しかし、偏狭さが原因でそれができなかった。法師に本当に必要だったのは、誰かを「師」として頼る姿勢や考え方である。 4 本時の学びを振り返る。★発見力の表出場面	疑問に思ったところ	① どうして1人で行ったのか。 ② どうして山の上に行く人が気になったのに何も聞かなかったのか。	自分の考え	根拠となる記述…「ただ一人、徒歩より詣でけり」「かたへの人にあひて」 わかること…話を聞いてくれる仲間はいから、友達がいないわけではない。 考えたこと…調べてみたら乗合船でいくこともできたらしい。仲間もいるのにあえて1人で歩いて向かっているから、「1人で成し遂げる」ことこそ参詣だと思っていたのではないか。	A さん	調べてみたら、当時は石清水八幡宮にお参りに行くための乗合船があったみたいで、それでいくこともできたらしいよ。だからきっと、1人で歩いていくことも含めて参詣だと思っていたのではないかな。 帰ってから周りの人に自慢気に話していたことも考えると、人見知りではなさそうなんだけど、どうして山の上に向かう人に何も尋ねなかったんだろう。	B さん	他の人に尋ねなかったのは、自分を信じすぎていたからではないかと思ったよ。帰ってから自慢するかのようになり、周りの人に話をしていて様子から、こうと決めたらそれを信じすぎて、周りの意見を取り入れない感じもするし。やっぱり、自分で誰かに尋ねていけばよかったよね。先達がいなくても、尋ねてさえいけば、間違いは起きなかった訳だし。	C さん	石清水八幡宮は当時すごく有名だったみたいだから、「かたへの人」つまり仲間が法師の話聞いたとき、きっと違和感を抱き、勘違いの可能性に気付いていたと思う。あまりにも誇らしげに語る姿に呆れかえってしまい、何も言う気にならなかったのかもしれない。	D さん	この法師は、勘違いに気付くことのできるタイミングが多々あったけど、自分を信じすぎる性格のために、それを逃してしまったよね。先導者よりも、そもそも法師自身が誰かを先導者にする、誰かに教えを乞う心を持つことが必要だったと思う。	1【研究内容2－(1)】 ・国語科が定義する「発見力」とは、「言葉による見方・考え方を働かせ、話したり、聞いたり、書いたり、読んだりして、言葉を吟味する力」である。本時では「記述を基に表現されていない空白部分を顕在化させ、表現されている内容と整合性を図りながら読み深める姿」の表出が、発見力の表出ということになる。よって本時はこの姿を生み出すのに適しているプロファイリングという活動を位置付ける。 2【研究内容3－(1)】 ・言語活動の状況を省察し、学習調整していくために、OPPAシートを用いて形成的評価を行い、個別に指導する。 3【★発見力の表出に関わって】 ・「記述を基に表現されていない空白部分を顕在化させ、表現されている内容と整合性を図りながら読み深める姿」の表出のため、授業中盤以降で「先達とはどういう人のことを指すのか」という発問を投げかける。 【評価規準】プロファイリングによって導き出した法師の人物像を根拠に、法師に本当に必要だったものについて自分の考えを説明している。〔思考・判断・表現C（1）オ〕
疑問に思ったところ	① どうして1人で行ったのか。 ② どうして山の上に行く人が気になったのに何も聞かなかったのか。												
自分の考え	根拠となる記述…「ただ一人、徒歩より詣でけり」「かたへの人にあひて」 わかること…話を聞いてくれる仲間はいから、友達がいないわけではない。 考えたこと…調べてみたら乗合船でいくこともできたらしい。仲間もいるのにあえて1人で歩いて向かっているから、「1人で成し遂げる」ことこそ参詣だと思っていたのではないか。												
A さん	調べてみたら、当時は石清水八幡宮にお参りに行くための乗合船があったみたいで、それでいくこともできたらしいよ。だからきっと、1人で歩いていくことも含めて参詣だと思っていたのではないかな。 帰ってから周りの人に自慢気に話していたことも考えると、人見知りではなさそうなんだけど、どうして山の上に向かう人に何も尋ねなかったんだろう。												
B さん	他の人に尋ねなかったのは、自分を信じすぎていたからではないかと思ったよ。帰ってから自慢するかのようになり、周りの人に話をしていて様子から、こうと決めたらそれを信じすぎて、周りの意見を取り入れない感じもするし。やっぱり、自分で誰かに尋ねていけばよかったよね。先達がいなくても、尋ねてさえいけば、間違いは起きなかった訳だし。												
C さん	石清水八幡宮は当時すごく有名だったみたいだから、「かたへの人」つまり仲間が法師の話聞いたとき、きっと違和感を抱き、勘違いの可能性に気付いていたと思う。あまりにも誇らしげに語る姿に呆れかえってしまい、何も言う気にならなかったのかもしれない。												
D さん	この法師は、勘違いに気付くことのできるタイミングが多々あったけど、自分を信じすぎる性格のために、それを逃してしまったよね。先導者よりも、そもそも法師自身が誰かを先導者にする、誰かに教えを乞う心を持つことが必要だったと思う。												

【公開Ⅱ】4年2組 国語科学習指導案

北舎2階 4年2組教室 江口 伸一郎

- 1 単元名 一人一役で話し合おう
教材名 クラスみんなで決めるには

2 指導の立場

(1) 教材について

本教材では、学校生活の中から話し合う議題を設定し、司会者、提案者、参加者などがそれぞれの役割を意識して話し合う構成となっている。本単元では、子供たちにとって学校生活に関わる話題を設定することで、必要感の高い話し合いをすることができるようにする。そのために、司会、記録、提案者、参加者を分担して経験させることで、それぞれの役割を捉えられるようにする。また、互いの役割について見合い、よかった点や改善点を伝え合う活動を取り入れることで、自分や仲間の話し合い方を振り返り、よりよい話し合いにするためにはどうすればよいかを考えることができる教材となっている。

(2) 児童生徒について

4年生「聞き取りメモのくふう」の学習では、先生が小学校の頃に夢中になっていたことを聞き取りながらメモを取る活動を通して、目的に応じて大事なことを書き留めながら聞く姿が見られた。また、対話的な活動を通して意見を交流する経験を積み、願いをもって考えを伝えられる児童も多い。しかし、日常生活の中で、話し合いがうまく進まず困った経験や、自分の意見が十分に反映されないまま、じゃんけんなどで物事が決まり、嫌な経験をしている姿も見られる。本単元では、児童一人一人が目的や相手を意識し、司会は話し合いをまとめる、参加者は自分の考えを伝えるなど、それぞれの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができるようにしたい。

(3) 指導について

本単元では、児童が話し合いを客観的に振り返り、身に付いた力を自覚できるよう話し合いグループ(A)とモニタリンググループ(B)の二つの立場を設定する。(B)の児童には話し合いを観察させ、中間振り返りでは、客観的な評価基準に基づいて他者評価を行わせる。さらに、他者からの評価を踏まえ、自分の成長や身に付いた力を実感できるよう、立場を入れ替えて話し合いを行い、学びを確かめる場を設定する。これらの活動を通して、よりよい話し合いにするための方法を整理し、学んだことを次の話し合いや各教科の学習に生かす力を育てたい。また、活動の過程ではOPPA表を活用し、自分の学びを見つめ直すことで、学習の見通しや課題を明確にできるよう指導・援助する。

3 研究に関わって

【研究内容1 育成したい国語の資質・能力と日常生活や社会生活とを関連させた義務教育期間のカリキュラム構成】

本単元では、「目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる」という資質・能力の育成を目指し、必要感のある話題を設定し、学級全体で一つの考えにまとめる活動を行う。話し合いがうまくいかなかった経験を想

起させ、「みんなで一つのことを決めるためには、どのように話し合えばよいのか」という課題意識をもたせる。その上で、話し合いを成立させるために司会や提案にはどのような役割があるのか、また、話し合いをどのように進め、互いの意見を整理してまとめればよいのかについて考えさせる。このように、日常生活における課題と国語科で育成を目指す資質・能力とを関連付け、実際の生活場面につながる言語活動として位置付けた。

【研究内容2 国語を学ぶことに必要感をもち、自己課題や自己省察を行う場の位置付け】

話し合い活動では、児童の価値観が多様であるため、話し合いが進まない。しかし、話し合いを円滑に進めることを優先し、自分の意見が反映されないのでは、充実した話し合いにはならない。そこで、例えば司会の役割には、話し合いを進行・整理するだけでなく、多くの児童が話し合いに参加できるように働きかける役割があることに気付かせる。こうした役割の必要性を実感することで、主体的に言語活動に取り組むことができると考えた。また、本単元では、OPPA表を活用し、児童が単元の学習の見通しをもつとともに、自らの課題を明確にして学習に臨み、学習後に自己省察できるようにする。さらに、単元を通して自己課題を意識しながら学習を進め、必要に応じて課題や学習方法を修正する場を位置付けることで、自らの学びを調整しながら学習する力を育成していきたい。

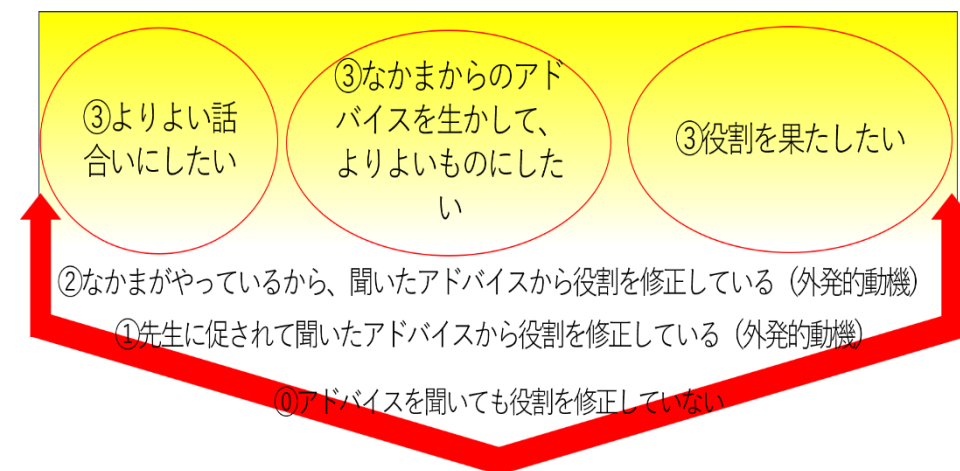
【研究内容3 児童生徒が行っている言語活動の状況に応じた適切な個別の指導と評価】

児童の学習状況を見取る際には、発表の準備や練習の様子を観察したり、ICT機器で録画した動画を見たりする。活動の様子を観察しながら児童と対話したり、OPPA表を活用したりすることを通して、個に応じた形成的評価を行い、個別の指導・援助をしていく。

4 本時の、自走に必要な資質・能力「発見力」に関わって

表出する場面	話し合い後の交流時
表出する行動	1回目の話し合いを経て修正する姿

発見の動機類型化シート



5 単元指導計画

単元で育む資質・能力		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
①相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強調、間の取り方などに注意して話すことができる。 (1) イ ②必要な語句などの書き留め方を理解し、使うことができる。(2) イ	①目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり、分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。A (1) ア ②目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。A (1) オ	①話合いをする上で大切な国語の資質・能力を意識しながら、自分の学習の進め方を決定したり、学習を調整したりしようとしている。
時	学習のねらいと主な学習活動	評価規準
1	<u>充実した話合いとはどんな活動なのか考えよう。</u> 単元の学習を通して、身に付けたい資質・能力を明らかにし、学習の進め方の見通しをもつことができる。 ・これまでの話合いの経験を振り返り、話合いでの良さや課題を共有する。 ・4年2組が目指すよりよい話合いとは何かを定義付け。 ・充実した話合いにするためには「司会などの役割の果たし方」「共通点や相違点に着目して、考えをまとめる」ことが大切だということを確認する。 ・OPPA表で単元の学習の流れの見通しを持ち、個人課題を設定していく。	単元の学習の見通しをもち、身に付けたい国語の力を意識しながら学習を進めようとしている。 [主体的に学習に取り組む態度①] <u>活動の様子・OPPA表</u> ・ここでは、ワークシートにある自己課題から、どんなことを意識しようとしているかを確認する。
2	<u>話合いの話題をたしかめて、役割分担をしよう。</u> 役割の働きを理解し、話し合う目的を意識して、学校生活の中から必要感のある議題を決めることができる。 ・児童の身近な「行事に関わるもの」「学級内の諸問題」を教師が提示して、話し合う必要性がある話題を決める。 ・話合いで必要な役割を確認し、司会グループ(司会者、記録者)、提案者、参加者を決める。	目的を意識して、日常生活の中から話題を決めようとしている。[思考・判断・表現①] <u>活動の様子・OPPA表</u> ・ここでは、仲間の意見を聞きながら、話し合う必要性を踏まえて話題を設定しているかを確認する。
3 4	<u>話合いの準備をし、それぞれの役割で気を付けることを考えよう。</u> 役割に応じて自分たちの話合いの準備を進め、話合いで気を付けることを考えることができる。 ・教科書の話合いの例やそれを動画にしたものを活用し、司会、記録、提案、参加の役割において気をつけると良いことを考える。 ・気を付けるとよいことを共有して、自分の役割に応じた準備(進行計画、記録や整理の仕方、提案内容、自分の考え)を行う。	集めた材料を比較したり、分類したりして、話し合うために必要な事柄を選ぼうとしている。 [思考・判断・表現①] <u>活動の様子・OPPA表</u> ・ここでは、それぞれの役割に応じた準備をしているかを確認する。
5 (本時) 6 7	<u>役割を意識して話合いをしよう。</u> 目的や進め方を意識して話合いを行うことを通して、一人一人が役割を果たすことが4年2組の目指す話合いにつながる と気づき、共通点や相違点に着目して考えをまとめることができる。 ・これまでに学習してきたことを生かして話合いをする。 ・1回目 Aグループ：話合い Bグループ：モニタリング、アドバイス ・2回目 Bグループ：話合い Aグループ：モニタリング、アドバイス ・3回目クラス全体での話合い ・役割を意識したり共通点や相違点に着目して考えをまとめたりすることができているか確かめる。	自分の役割を果たしながら、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめようとしている。 [思考・判断・表現②] <u>関連を図る指導事項：知識・技能①</u> <u>活動の様子・OPPA表</u> ・ここでは、自分の役割を意識して話合いをしているか確認する。
8	<u>話合いの振り返りをして、これからの話合いで生かしていきたいことを考えよう。</u> 話合いの動画を見たり、良さや課題を振り返ったりする活動を通して、司会などの役割の必要性に気づき、これからの話合いに生かしていこうとすることを考えることができる。 ・録画した話合いの映像を見て、意識して変えたことやなぜ変えたのかを振り返る。 ・それぞれの役割の良さを評価し合い、これからの話合いで生かしたいことを自分なりにまとめる。	「話すこと・聞くこと」において、仲間の発表の良さを見つけ、これからの話すことに生かしたいことを考えている。 [主体的に学習に取り組む態度①] <u>活動の様子・OPPA表</u> ・ここでは、振り返りから今後生かしたいことを考えているか確認する。

6 本時のねらい

目的や進め方を意識して話し合いを行うことを通して、一人一人が役割を果たすことが4年2組の目指す話し合いにつながると気づき、共通点や相違点に着目して考えをまとめることができる。[思考力、判断力、表現力等A(1)オ]

7 本時の展開(5/8)

生徒の学習活動	研究に関わって												
1 自己課題を確認する。 (例) 司会として作った進行計画を見たり役割を意識したりして、話し合いをする。 2 話し合いをする。 話し合いの議題：(例) 1年生との交流会で何をするか。(議題は第2時の授業内で決定) 進行計画：①議題を確かめる。(1分)②提案を話してもらおう。(5分)③意見を出し合う。(7分)④まとめる。(2分) <table><tr><th>実際の話合い</th><th>役割・気をつけること</th></tr><tr><td>今日は、1年生との交流会でどんな遊びをするのかを決めます。時間は15分です。 (中略) 全ての案が出ました。この中からどうやって決めるかを考えます。自分の考えとその理由を話してください。…考えが出ないようなので、考える時間を2分とります。…2分たちました。どうですか。(中略)他の人はどうですか。他になければ、安全に楽しめる遊びを、話し合って決めましょう。</td><td>【役割】 ・話し合いがまとまるように進行していく。 【そのために】 ・意見が出ないときは考える時間をとる。 ・同じ意見や違う意見を確認する。</td></tr></table> 3 中間振り返りを行い、役割・気をつけることを修正する。★発見力の表出場面 <table><tr><th>よかった点、うまくいかなかった点</th><th>モニタリングGからのアドバイス</th><th>次話し合いに向けて</th></tr><tr><td>▲時間を考えて進めることができた。 ▲話題がずれて、結論がでなかった。 ▲意見をつなげてまとめることができなかった。</td><td>・司会グループで話題がずれていないか確認をするといいと思う。 ・意見を聞きながら少しずつまとめていくと、最後にまとめやすいと思う。 ・司会の意見もあっていいと思う。</td><td>・司会グループと確認をしながら、話し合いがずれないように進行をする。 ・話し合いの途中でまとめる。 ・みんなの意見をつなげるために大事なと思う言葉を見つける。</td></tr></table> 4 再度話し合いを行う。 <table><tr><th>実際の話合い</th></tr><tr><td>遊びの案が全部出ました。ここからは、どの遊びにするかを決めたいと思います。どうやって決めたいですか。<u>(話題とずれた発言が出た→司会グループで確認)</u>今は、遊びの決め方について話しています。ほかに意見はありますか。(中略)じゃあ、<u>今出ている意見を一度まとめます。</u>やりたい人が多い遊びにするという意見と、<u>1年生が安全に楽しめる遊びにするという意見が出ています。</u>(中略)なるほど。<u>では、じゃんけん列車なら1年生が安全に楽しめるか、時間内にできるかを考えて決めていきましょう。</u></td></tr></table> 5 本時の学びを振り返る。★発見力の表出場面 仲間のアドバイスを聞いて、進行計画は自分たちだけが話し合いやすくするためのものではなく、みんなが安心して自分の考えを伝えたり、友達の考えをしっかりと聞いたりできるようにすることが大切だと思った。これからの話し合いでは仲間がどんな思いがあるかを考えながら、みんなでよりよい話し合いにしていきたい。	実際の話合い	役割・気をつけること	今日は、1年生との交流会でどんな遊びをするのかを決めます。時間は15分です。 (中略) 全ての案が出ました。この中からどうやって決めるかを考えます。自分の考えとその理由を話してください。…考えが出ないようなので、考える時間を2分とります。…2分たちました。どうですか。(中略)他の人はどうですか。他になければ、安全に楽しめる遊びを、話し合って決めましょう。	【役割】 ・話し合いがまとまるように進行していく。 【そのために】 ・意見が出ないときは考える時間をとる。 ・同じ意見や違う意見を確認する。	よかった点、うまくいかなかった点	モニタリングGからのアドバイス	次話し合いに向けて	▲時間を考えて進めることができた。 ▲話題がずれて、結論がでなかった。 ▲意見をつなげてまとめることができなかった。	・司会グループで話題がずれていないか確認をするといいと思う。 ・意見を聞きながら少しずつまとめていくと、最後にまとめやすいと思う。 ・司会の意見もあっていいと思う。	・司会グループと確認をしながら、話し合いがずれないように進行をする。 ・話し合いの途中でまとめる。 ・みんなの意見をつなげるために大事なと思う言葉を見つける。	実際の話合い	遊びの案が全部出ました。ここからは、どの遊びにするかを決めたいと思います。どうやって決めたいですか。 <u>(話題とずれた発言が出た→司会グループで確認)</u> 今は、遊びの決め方について話しています。ほかに意見はありますか。(中略)じゃあ、 <u>今出ている意見を一度まとめます。</u> やりたい人が多い遊びにするという意見と、 <u>1年生が安全に楽しめる遊びにするという意見が出ています。</u> (中略)なるほど。 <u>では、じゃんけん列車なら1年生が安全に楽しめるか、時間内にできるかを考えて決めていきましょう。</u>	2【研究内容2-(1)】 ・話し合う活動では、困った経験や嫌な経験を想起させることで、目的や役割の必要性に気付かせ、言語活動の内容や目的を明確にすることで、主体的に学習に取り組めるようにする。 2【研究内容2-(2)】 ・育成する国語の資質・能力を意識するために、「OPPA表」に自己課題と自己省察を位置付ける。自己課題、自己省察の視点を明確にするために、単元でつきたい力と単元の活動について生徒と共有し、見通しをもったり、これまでの学習とつなげられたりするようにする。 2、3、4【研究内容3-(1)】 ・言語活動の状況を自己省察し、学習調整をしていくために、形成的評価を行い個別に指導する。 3、4【★発見力の表出に関わって】 ・モニタリンググループから客観的な評価を受けることで、自分では気付かなかった役割の在り方に気付くことができるようにする。そのために、同じ役割を担った児童同士で交流し、役割の在り方について考える場を設定する。交流やワークシートへの記述から、自らの考えを修正する姿を見取る。 【評価規準】目的や進め方を意識して話し合いを行うことを通して、一人一人が役割を果たすことが4年2組の目指す話し合いにつながると気づき、共通点や相違点に着目して考えをまとめている。 [思考・判断・表現A(1)オ]
実際の話合い	役割・気をつけること												
今日は、1年生との交流会でどんな遊びをするのかを決めます。時間は15分です。 (中略) 全ての案が出ました。この中からどうやって決めるかを考えます。自分の考えとその理由を話してください。…考えが出ないようなので、考える時間を2分とります。…2分たちました。どうですか。(中略)他の人はどうですか。他になければ、安全に楽しめる遊びを、話し合って決めましょう。	【役割】 ・話し合いがまとまるように進行していく。 【そのために】 ・意見が出ないときは考える時間をとる。 ・同じ意見や違う意見を確認する。												
よかった点、うまくいかなかった点	モニタリングGからのアドバイス	次話し合いに向けて											
▲時間を考えて進めることができた。 ▲話題がずれて、結論がでなかった。 ▲意見をつなげてまとめることができなかった。	・司会グループで話題がずれていないか確認をするといいと思う。 ・意見を聞きながら少しずつまとめていくと、最後にまとめやすいと思う。 ・司会の意見もあっていいと思う。	・司会グループと確認をしながら、話し合いがずれないように進行をする。 ・話し合いの途中でまとめる。 ・みんなの意見をつなげるために大事なと思う言葉を見つける。											
実際の話合い													
遊びの案が全部出ました。ここからは、どの遊びにするかを決めたいと思います。どうやって決めたいですか。 <u>(話題とずれた発言が出た→司会グループで確認)</u> 今は、遊びの決め方について話しています。ほかに意見はありますか。(中略)じゃあ、 <u>今出ている意見を一度まとめます。</u> やりたい人が多い遊びにするという意見と、 <u>1年生が安全に楽しめる遊びにするという意見が出ています。</u> (中略)なるほど。 <u>では、じゃんけん列車なら1年生が安全に楽しめるか、時間内にできるかを考えて決めていきましょう。</u>													

【公開Ⅱ】 7年1組 国語科学習指導案

南舎2階 7年1組教室 松原 圭史

- 1 単元名 場面や描写を結びつけて読もう
教材名 「星の花が降るころに」

2 指導の立場

(1) 教材について

本教材には、冒頭と結末に銀木犀の描写がある。冒頭は「私」と夏美の関係が良好だった時のもので、二人の関係の深さを表す存在といえる。しかし、結末では、今までのことや一つのことにとこだわらずに生きていこうとする「私」の気持ちを後押しする存在になっている。このように、物語のモチーフとなる物や場所がこの作品にはいくつか登場する。そこで、それらに着目させながら人物の心情を鮮明に読み取れるようにしたい。場面と場面、場面と描写を結びつけることによって新たな意味を見出すことは、文学的な文章だからこそ味わえる経験であり、作品の魅力を深く考えることにつながると考えている。

(2) 児童生徒について

文学的な文章の学習において、生徒は4月に「はじまりの風」、7月に「大人になれなかった弟たちに……」を学習している。「はじまりの風」では、作品の全体像と場面ごとの心情を捉える活動を通して、場面の展開（発端・山場・結末）を考えながら読むことができた。「大人になれなかった弟たちに……」では、要所で繰り返し使われている情景描写に着目して、人物の心情を捉えてきた。そこで本教材では、これまでの学習を生かしながら、複数の場面や描写を結びつけて読むことで、作品をさらに読み深めることができることに気付かせたい。

(3) 指導について

単元の導入で終末に行う表現活動を示し、学習の見通しをもたせる。そのうえで、第2、3時には「私」の心情を読み取ることを目標に自己課題を設定して自分で学び進めていく。これまで学んだ読み取りの技の中から生徒が選択して自己課題を立てることが予想される。本時（第4時）では、本教材で新たに学んでほしい「場面と場面、場面と描写を結びつけて読む」ことを全体課題として示す。全体課題と自己課題を適切に使い分けることで、既習事項を深化させたり、本単元で身に付けたい資質能力を養ったりすることができると考えている。

3 研究に関わって

【研究内容1 育成したい国語の資質・能力と日常生活や社会生活とを関連させた義務教育期間のカリキュラム構成】

これまでの物語教材で、生徒は心情を読み取るのに様々な技を習得している。本教材では、新たな技として「同じ物や場所、表現が複数の場面に出てきたとき、これらを結びつけて考えることで、さらに読み深められること」を実

感させたい。この力は、第9学年教材「握手」での「握手や指言葉」を基にして心情を読み取る際にも大切な力になる。また、読書生活を豊かにすることにもつながると考えている。

【研究内容2 国語を学ぶことに必要感をもち、自己課題や自己省察を行う場の位置付け】

単元の終末には「描こう Next Story!」を設定している。物語の続きを考えるには、主人公「私」の心情の変化を適切に捉えたり、物語の象徴となる物や場所などの意味を考えたりする必要がある。そのために、第一時で、本単元の最終目標が「作品の続きを書くこと」であることを明確に示し、作品の続きを書くために読むという目的意識を生徒に持たせておく。学ぶことに必要感をもちた児童に自己課題や自己省察を行う場の位置付けとしてOPPA表を用いる。そうすることで、自分の学び方や考え方、表し方を見つめ、具体的な姿として言語化することができると考えている。

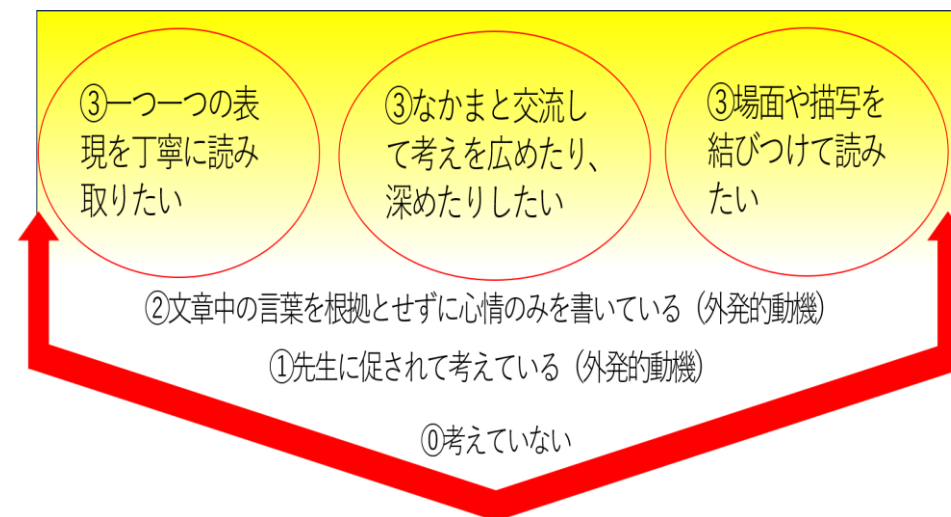
【研究内容3 児童生徒が行っている言語活動の状況に応じた適切な個別の指導と評価】

生徒自身が、言語活動の状況を自己省察し、学習調整していくために、OPPA表を活用し、生徒との対話を基に見取る。その上で、個に応じた形成的評価を行い、指導・援助できるようにする。また、学習状況を見取り、意図的に同じ考えをもつ他の生徒とつなげたり、全体指導で一人の考えを全員で共有したりすることで、考えを広げたり深めたりしたい。

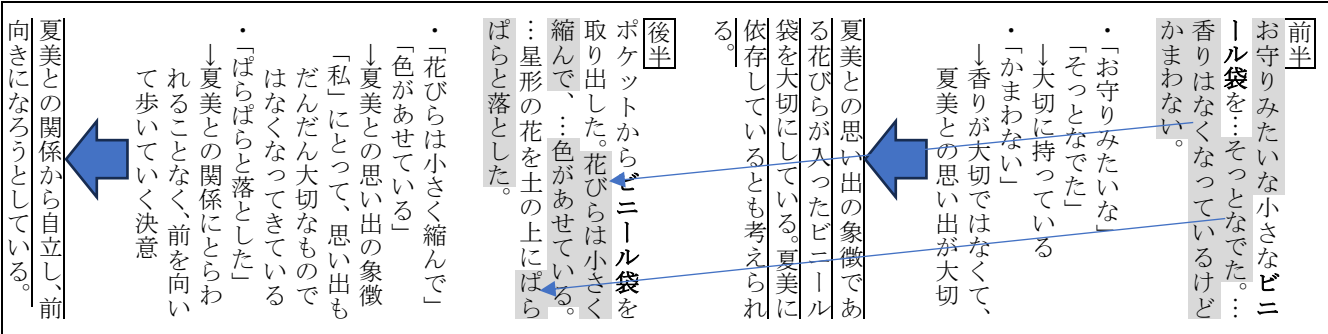
4 本時の、自走に必要な資質・能力「発見力」に関わって

表出する場面	課題解決に取り組む場面・考えを伝え合う場面
表出する行動	一つ一つの表現と丁寧に向き合って考えを形成する姿 仲間との交流から考えを広げたり深めたりする姿

発見の動機類型化シート



5 単元指導計画

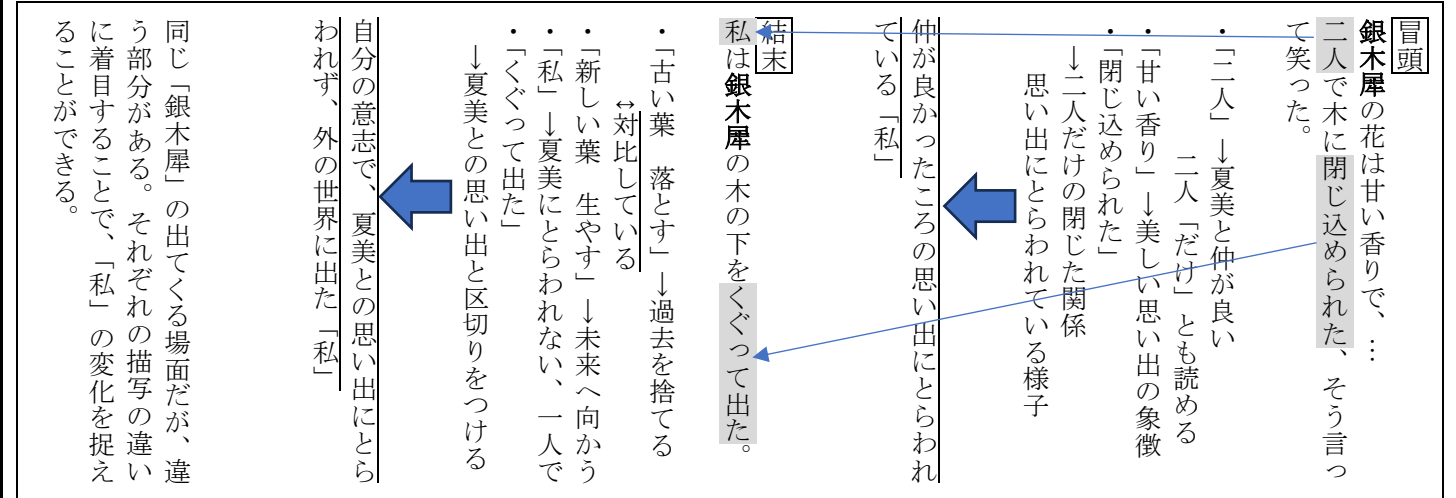
単元で育む資質・能力		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
①比較や分類、関係づけなどの情報の整理の仕方について理解を深め、それらを使うことができる。 (2) イ	①目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と場面、場面と描写などを結びつけたりして、内容を解釈することができる。C (1) ウ	①言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとしている。
時	学習のねらいと主な学習活動	評価規準
1	<u>学習の見通しをもとう。</u> 学習を進める上で大切なことが分かり、自分の学習の進め方を決定し、自ら進んで作品を読もうとしている。 ・単元出口の言語表現「描こう Next Story！」について知る。 ・「描こう Next Story！」の条件（「①「私」を主人公とすること」「②「私」の物語中での心情を踏まえて続きを書くこと」「③物語に出てくる象徴的な物や場所を入れて続きを書くこと」）を確認する。 ・「星の花が降るころに」を読み、自己課題を立て、学習の見通しをもつ。	学習を進める上で大切なことが分かり、自分の学習の進め方を決定し、自ら進んで作品を読もうとしている。 [学びに向かう力、人間性等①] <u>ワークシート・活動の様子</u> ・各単位時間の自己課題から何を意識して読もうとしている。
2	<u>自己課題に沿って作品を読み進めよう。</u> 前時立てた自己課題に沿って、「私」の心情を読み取ることができる。 ・(例) 場面の展開に着目して、山場を捉える。	「読むこと」において、細部の描写にも着目して読み、主人公の心情やその変化を捉えている。 [思考・判断・表現①]
3	・(例) 「私」の心情の変化を図で整理する。 ・(例) 「私」の行動から、心情を読み取る。 ・(例) 場面の情景から「私」の心情を読み取る。 ・(例) 題名から物語に込められた主題を読み取る。	<u>ワークシート</u> ・自己課題に沿って、これまでに学んだ読み取りの技を基に「私」の心情を読み取っている。
4 (本時)	<u>繰り返し描かれている同じ物や場所からどんなことが読み取れるだろう。</u> 同じ物や場所について、図などを使って、場面や描写を整理・比較し、どんなことが読み取れるか考えることができる。 	「読むこと」において、場面と場面、場面と描写などを結びつけて内容を解釈している。 [思考・判断・表現①] <u>ワークシート</u> ・場面ごとの状況や、場面と人物などの描写を結びつけて、内容を読み深めている。 比較や分類、関連付けなどの情報の整理の仕方について理解を深め、それらを使っている。 [知識・技能①] <u>ワークシート</u> ・場面や描写の結びつきを、図などを用いて整理・比較している。
5	<u>「描こう Next Story！」を書きまとめ、交流する。</u> 読み取った内容を基に、自分が考えた作品を作成し、交流する活動を通して、自分とは違う解釈があることを知ったり、多様な心情表現に触れたりすることで、読書が知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することができる。	読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。 [知識・技能①]
6	・ロイロノートを活用して作成する。 ・作品を交流し、よさを伝え合う。 ・本単元の学習について感想を交流し、読書の楽しさや言葉にこだわることの大切さを共有する。	<u>ワークシート</u> ・ここでは、他の生徒の作品を見て、気付いたことをワークシートにまとめているかを確認する。

6 本時のねらい

冒頭と結末の「銀木犀」や「ビニール袋」等に関する描写の違いを読み取る活動を通して、描写の変化が「私」の心情や考え方の変化を表していることに気づき、場面と場面、場面と描写を結びつけて作品を解釈することができる。

[思考力、判断力、表現力等 C (1) ウ]

7 本時の展開 (4/6)

生徒の学習活動	研究に関わって
1 前時までの学習を振り返り、全体で考えたい問いを確かめる。 ・(例) 前回は「私」の心情を読み取り、変化を図に表した。 ・〇〇さんは、「銀木犀」が物語の最初と最後に出てくことに気付いていたな。 繰り返して描かれている同じ物や場所からどんなことが読み取れるだろう。 2 課題解決に取り組む。 〈(例) Aさんの考え〉  3 考えを交流する。★発見力の表出場面 ・「わけがわからない」…前半は、夏美との関係を深刻に悩んでいる「私」が「わけがわからない」行動をとる戸部君に対し、いら立っている。後半は、「私」を笑わせようとする戸部君の「わけがわからない」ところに救われている。 ・「ビニール袋」…前半は、夏美との思い出の象徴であり大切にしているが、後半は袋の口を開け花びらを落とすことで前を向いて歩いていく決意の象徴になっている。 4 本時の学びを振り返る。 私は、〇〇と考えたが、△△さんと交流して□□という考えもあることが分かった。同じ銀木犀でも冒頭と結末で表され方が違うことに気付いた。同じ物や場所が出てくる場面を結びつけ、その違いを考えることで、登場人物の心情の変化を捉えることができると学んだ。これからも、物語の象徴となる物や場所を意識しながら読書をしたい。	①【研究内容 2－(2)】 ・育成する国語の資質・能力を意識するために、「OPPA表」に自己課題と自己省察を位置付ける。自己課題、自己省察の視点を明確にするために、単元でつきたい力と単元の活動について生徒と共有し、見通しをもったり、これまでの学習とつなげられたりするようにする。 ②【研究内容 3－(1)】 ・言語活動の状況を自己省察し、学習調整していくために形成的評価を行い、個別に指導する。また、自己課題と全体課題を意図的に位置付け、指導事項に関わって確実に学ばせたい事柄を押さえる。 【★発見力の表出に関わって】 ・「銀木犀」「ビニール袋」といった物語の象徴となる物や場所に着目させることで、同じ物や場所でも場面によって表現のされ方が違うことや、それによって人物の心情の変化が読み取れることに気付かせる。そのために複数の場面で表される物や場所について、共通する部分や変化した部分を明確にさせる。一つ一つの表現を比較して読み、解釈を深めている姿を交流やワークシートから見取る。 【評価規準】 同じ物や場所が出てくる場面を結びつけ、その表現のされ方の違いから「私」の心情の変化を読み深めるなど、場面と場面、場面と描写を結びつけて内容を解釈している。 [思考・判断・表現C (1) ウ]

【公開Ⅲ】2年2組 国語科学習指導案

北舎1階 2年2組教室 松野 紗久羅

1 単元名 おもちゃパーティーにご招待

～おもちゃの説明書をプレゼントしよう～

教材名 「紙コップ花火の作り方」「おもちゃの作り方をせつめいしよう」

2 指導の立場

(1) 教材について

本単元は、「C読むこと」の指導事項「(1)ア 時間的な順序や事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えることができる。」「(1)ウ 文章の中の重要な語や文を考えて選びだすことができる。」と、「B書くこと」の指導事項「(1)イ 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。」「(1)ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。」を複合単元において育成することをねらいとしている。

「紙コップ花火の作り方」から順序を表す言葉や写真や文との対応などを学び、実際におもちゃの説明書を書く学習である。実体験を踏まえて、相手に分かりやすく伝える書き方について考え、文章にしていこうことに適した教材である。

(2) 児童生徒について

本学級の児童はこれまでに「たんぽぽのちえ」で、時間的な順序を表す言葉を手掛かりにすることで、正しい順序で内容をおさえることができることを学んできた。しかし、毎週末の日記の宿題では、自分の頭の中にある手順を時系列で言葉にする際に、事柄を表す順序の言葉が抜けてしまったり、指示語に頼りすぎて具体性を欠いたりする傾向が見られる。相手の視点に立って「これで伝わるか」を客観的に見直したり、適切な言葉を選択したりする力には個人差があるため、視覚的な手立てや対話を通した推敲の場が必要である。

(3) 指導について

これまで生活科や行事を通して一年生との交流を重ねてきた。「一年生とずっと仲良くなりたい」「知っていることを教えたい」という願いが大きな原動力となっている。そこで、生活科と図画工作科で学んできたおもちゃ作りを基に、国語科で一年生に伝える教科等横断的な学習を提案していく。動くおもちゃを作った実体験と一年生とのよりよい関わりを「伝えたい動機」とし、本時では、「いかに分かりやすく書くか」「どのような言葉や写真を使えば、一年生が上手に作れるか」という目的意識や相手意識をもつことができるように、お試しタイムやアドバイスタイムを取り入れ、自らの文章の分かりづらさに気付いたり、一年生にとって分かりやすい説明書であるかを確かめたりして、自発的に言葉を見直し、選び直す姿を目指していく。

3 研究に関わって

【研究内容1 育成したい国語の資質・能力と日常生活や社会生活とを関連させた義務教育期間のカリキュラム構成】

本教材は特に生活科での学びが深く結びついており、書くことへの切実な目的意識と相手意識をもって表現力を高めることができる。生活科と国語科の往還による教科横断的なカリキュラムデザインとして、生活科での試行錯誤を国語科での言語化へつなげ、国語科で順序や説明の工夫を生かして説明書を書く。再び生活科の「おもちゃパーティーに招待する」活動にて説明書をプレゼントする活動へ還元する循環型カリキュラムを構築する。

【研究内容2 国語を学ぶことに必要感をもち、自己課題や自己省察を行う場の位置付け】

「一年生に作ってもらう」「おもちゃ作りの説明書を作る」という明確な目的と相手を設定することで、書くことの必然性を生み出す。さらに、正確に作ることができるよう、試しながら書く環境を設けることで、言葉を選び選択できる。自分に今必要なことは何かを内省できる場を位置付ける。

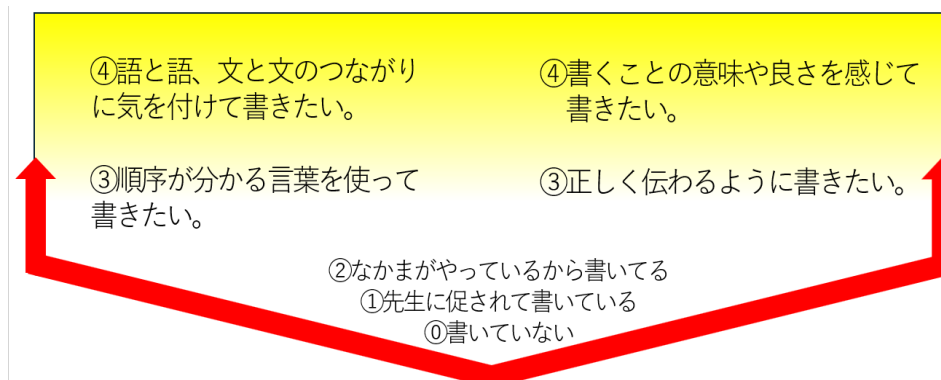
【研究内容3 児童生徒が行っている言語活動の状況に応じた適切な個別の指導と評価】

相手の立場になって実際に読んだり試したりすることを繰り返し行う。具体的には、一年生が本当にうまく作れるようにするための立場に立った説明ができるよう、対話を通した見直しと評価の場を位置付ける。また、「個別の指導・援助プラン」を作成し、児童が言語活動の状況を自己省察しながら、児童自ら学習調整するための形成的評価を行い、個別に指導する。

4 本時の、自走に必要な資質・能力「発見力」に関わって

表出する場面	文章にある不十分さ（順序のズレ・言葉の不足）に気付く
表出する行動	実際に作って確かめてみたり、短冊カードを並べ替えたりして、番号だけでは表しきれない相手を思う気持ちが順序を表す言葉にあることに気付く姿

発見の動機類型化シート



5 単元指導計画

単元で育む資質・能力			
知識及び技能		思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
①共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(2) ア ②身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。(1) オ ③読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。(3) エ		①時間的な順序や事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えることができる。C (1) ア ②文章の中の重要な語や文を考えて選びだすことができる。C (1) ウ ③自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。B (1) イ ④語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。B (1) ウ	①事柄の順序を表す言葉のよさを感じるとともに、「一年生におもちゃの作り方を正しく伝えたい」という思いを大切にし、考えを伝え合おうとしている。
時	学習のねらいと主な学習活動	評価規準	生活科・図画工作科
1	<u>学習の見通しをもとう。</u> 生活科での「一年生をおもちゃパーティーに招待したい」という願いを振り返ることを通して、おもちゃの仕組みや作り方を伝えるために分かりやすく伝える必要がありに気付き、筆者の説明の工夫を見つけるための計画を立てることができる。 ・生活科で抱いた願い（一年生をおもちゃパーティーに招待して、もっとなかよくなりた）を確認する。 ・遊び方や作り方を分かりやすく説明するための工夫を探していく見通しをもつ。 ・O P P Aシートに単元を貫く問い『説明をするときに大切なこととは何か。』について単元初めの考えを書く。	学習を進める上で大切なことが分かり、自分の学習の進め方を決定し、自ら進んで読もうとしている。 [学びに向かう力、人間性等①] ワークシート・活動の様子 ・ここでは、各単位時間の自己課題から何に意識して読もうとしているかを確認する。	【生活】単元の見通しをもつ（1時間） これまでの一年生との関わりを振り返ることを通して、一年生ともしっかり仲良くなるために工夫できることがあることに気付き、単元の課題や活動の見通しをもつことができる。 【図工】表したいことを考える（1時間） 開いたり閉じたりする動きを見ることを通して、仕組みの作り方に気付き、創造を膨らませ表したいことを考えることができる。
2	<u>どのようにおもちゃの作り方が書かれているのだろう。</u> 教材文を読むことを通して、道具や材料、作り方などまとまりに分かれて書かれていたり、時系列に沿って書かれていたりすることに気付き、内容の大体を捉えることができる。 ・どのようなまとまりに分かれているか確かめ、どの言葉に着目したかを共有する。 ・時系列に沿っていないまとまりの順を提示し、前書き、材料や道具、作り方、楽しみ方の順番には、どのようなよさがあるのか考える。 ・時系列に沿って書かれていることのよさについて共有する。 ・紙コップ花火を実際に作るための準備や確認をする。	「読むこと」において、道具や材料、作り方などまとまりに分かれて書かれていたり、時系列に沿って書かれていたりすることに気付き、内容の大体を捉えている。 [思考・判断・表現①] 〈関連を図る指導事項〉 読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。 [知識・技能③] ワークシート・活動の様子 ・ここでは、まとまりに分かれて書かれていることや、事柄の順序を表す言葉に着目しているかを確認する。	【生活】作りたいおもちゃを決める（1時間） おもちゃの動く仕組みに着目しながら見本のおもちゃで遊ぶことを通して、身近にある物を使ったおもちゃの動きの面白さやその特徴に気付き、自分の作りたいおもちゃを決めることができる。 【図工】紙コップ花火を作る（1時間） 教材文をもとに、実際に紙コップ花火を作ることを通して、画用紙やのり、はさみなどに慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、どんな花火にしたいかを考え工夫して作る。
3	<u>紙コップ花火を作ったときに、注目したところはどこだろう。</u> 段落ごとにバラバラにした文章を並び替える活動を通して、順序を表す言葉を手掛かりにすることで正しい手順で行えることに気付き、文章の中の重要な語や文を選び出すことができる。 ・「紙コップ花火」のおもちゃ作りを振り返り、どうしてうまく作れたのか教材文のどこに注目して作ったのかを確かめる。 ・順序を表す言葉を手掛かりにバラバラになった文章を並び替える。 ・順序を表す言葉（まず・つぎに等）の意味やよさを考える。	「読むこと」において、順序を表す言葉を手掛かりにすることで正しい手順で行えることに気付き、文章の中の重要な語や文を選び出している。 [思考・判断・表現②] 〈関連を図る指導事項〉 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解を深めている。 [知識・技能①] ワークシート・活動の様子 ・ここでは、順序を表す言葉や文章中の重要な語句を叙述から選んでいるかを確認する。	【生活】おもちゃを作る（3時間） 作りたいおもちゃを思い描きながら使う材料を選び、作ることを通して、材料や作り方を考えることで、おもちゃの動きが変わることに気付き、繰り返し試行錯誤しながら制作することができる。 【図工】おもちゃを作る（2時間） おもちゃの動きを想起することを通して、動きから感じたことや想像したことから、表したいことを見つけ、色や形を選んだり考えたりしながらどのように表すかについて考えることができる。
4	<u>写真と文章はどんな関係だろう。</u> 前時に作成した文章パズルや 複数の写真を見比べることを通して、写真があることで、言葉で説明しきれないこともわかりやすく伝えることができることに気付き、それぞれの写真が文章のどの部分を指しているのかを読み取ることができる。 ・教科書に提示されているそれぞれの写真は、文章のどの部分と合わせて読むとよいか、線を引き対応させ、文章とつながっていることを確認する。 ・写真の必要性について、幅や位置、言葉で説明しきれないことを伝えることができるなど考えを書く。	「読むこと」において、写真があることで、言葉で説明しきれないこともわかりやすく伝えることができることに気付き、それぞれの写真が文章のどの部分を指しているのかを読み取っている。 [思考・判断・表現②] ワークシート・活動の様子 ・ここでは、文章と写真との関係性を自分の言葉でまとめているかを確認する。	

5	<u>筆者の説明の工夫は何だろう。</u> 文章を読んで感じたことや習得したことを共有することを通して、一人一人異なる感じ方があることに気づき、おもちゃの作り方を説明する文章を書くときに使ってみたい説明の工夫を考えることができる。 ・筆者の説明の工夫を確認し、それぞれの工夫のよさを共有する。 ・説明する文章を書くときに使ってみたい説明の工夫を考え、まとめる。	「読むこと」において、一人一人異なる感じ方があることに気づき、おもちゃの作り方を説明する文章を書くときに使ってみたい説明の工夫を考えている。 [学びに向かう力、人間性等①] <u>ワークシート・活動の様子</u> ・ここでは、おもちゃの作り方を説明するときに使ってみたい説明の技を持っているかを確認する。	【生活】おもちゃを改良する（3時間） 実際に動かしたり仲間のおもちゃと比べたりすることを通して、よりよく動かしたいという思いから自分に加えた工夫とおもちゃの動きとの間に一定の関係性があることに気づき、繰り返し改良しようとするすることができる。
6	<u>説明するおもちゃについて必要な情報は何だろう。</u> おもちゃ図鑑を作成する目的を確認することを通して、おもちゃ作りを説明するには、材料や手順をまとめることが必要であると気づき、おもちゃ作りの計画を立てることができる。 ・おもちゃパーティーを開催することや、誰（一年生）に、何（自分のおもちゃ）を伝えるのかを確認する。 ・おもちゃの作り方や遊び方を口頭で説明しても作るのが難しいことを実感し、書く必然性をもつ。また、書いた説明書はおもちゃ図鑑としてプレゼントする。 ・生活科で制作したおもちゃを想起し、材料や道具、作り方などのメモを短冊カードに書く。	「書くこと」において、学習を進める上で大切なことが分かり、自分の学習の進め方を決定し、自ら進んで読もうとしている。 [学びに向かう力、人間性等①] <u>ワークシート・活動の様子</u> ・ここでは、各単位時間の自己課題から何に意識して読もうとしているかを確認する。	【図工】おもちゃを交流する（1時間） 仲間のおもちゃを交流することを通して、構造の面白さや楽しさ、表し方などに気づき、互いのおもちゃを鑑賞することができる。 【生活】遊びを考える（2時間） 遊ぶ活動について話し合うことを通して、楽しく遊ぶために必要なことや決めなければならないことなど共通理解することが必要であると気づき、遊ぶ活動に向けて準備をすることができる。
7	<u>どのような順序で説明するとよいだろう。</u> 「紙コップ花火の作り方」と「けん玉の作り方」の教材文を比較することを通して、文章全体の組み立てには同じような構成でできていることに気づき、まとまりを意識して書こうとすることができる。 ・二つの文章を読み比べ、同じような構成でできていることを確認する。 ・最後の〈楽しみ方〉と〈遊び方〉は、名前は違うが、どちらも楽しく遊べるように読者に向けて書かれていることに気付く。 ・〈作り方〉の書き方が難しいと感じている児童を取り上げ、次回の見通しをもつ。	「書くこと」において、文章全体の組み立てには同じような構成でできていることに気づき、まとまりを意識して書こうとしている。 [思考、判断、表現③] <u>ワークシート・活動の様子</u> ・ここでは、まとまりごとに書くことよいことに気付いているかを確認する。	【生活】リハーサルと相互評価を行う（1時間） リハーサルやアドバースタイルを通して、おもちゃや説明の修正点に気づき、本番に向けて見直しや調整を行うことができる。
8 (本時)	<u>どのような順序で説明すると分かりやすくなるだろう。</u> 〈作り方〉の短冊を操作する活動を通して、「まず」や「つぎに」など順序を表す言葉を使うと正しい手順を伝えることができることに気づき、順序を表す言葉の意味や役割を考えながら〈作り方〉の説明を書くことができる。 ・順序を表す言葉がなく、順番もバラバラなおもちゃの作り方を読み、伝わらない違和感から学習課題を立てる。 ・実際におもちゃを作り、手順を確かめる。 ・〈作り方〉の短冊メモを用意し、手順通りに並び替える。 ・順序を表す言葉がある場合とない場合を比較し、役割を確認する。 ・完成した文章を読み合い、正しく手順が伝わるか確かめる。	「書くこと」において、順序を表す言葉を使うと正しい手順を伝えることができることに気づき、順序を表す言葉の意味や役割を考えながら書いている。 [思考、判断、表現④] 〈関連を図る指導事項〉 身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。[知識、技能②] <u>ワークシート・活動の様子</u> ・ここでは、順序を表す言葉を使うことのよさを感じて使っているかを確認する。	【生活】おもちゃパーティー本番①（1時間） 一年生をもてなす活動を通して、一年生の表情や反応、思いに気づき、相手に寄り添った言葉がけや丁寧な関わり方をすることができる。 【生活】おもちゃパーティーをよりよくする（1時間） おもちゃパーティー本番①を通して、一年生が安全で楽しく遊べるための改善点に気づき、遊び方やルールを改良することができる。
9	<u>もっとわかりやすく伝えるためにはどうしたらいいだろう。</u> 文章を読み合う活動を通して、より正しく伝えるためには写真や手順を表す番号等があることで、言葉で説明しきれないことに気づき、説明に必要な写真を撮影し文章と対応させることができる。 ・文章を読み合い、より伝わる説明書にするためには何が必要かを考える。 ・本やチラシを見たりしながら、写真を撮ったり、説明を書き加えたりする。 ・一年生に伝わる説明書になっているかを相互評価する。	「書くこと」において、より正しく伝えるためには写真や手順を表す番号等があることで、言葉で説明しきれないことに気づき、説明に必要な写真を撮影し文章と対応させている。 [知識、技能①] <u>ワークシート・活動の様子</u> ・ここでは、文章以外にも正確に伝える工夫を見付けているかを確認する。	【生活】おもちゃパーティー本番②（1時間） おもちゃパーティー本番②を通して、ルールや遊び方を改良したことで、たのしく遊ぶことができるようになったことに気付くことができる。
10	<u>単元を振り返り、成長したところを確かめ合おう。</u> 完成した文章を読み合う活動を通して、仲間の表現の工夫や自分の言葉遣いの成長に気づき、単元全体の学びを振り返り、自己評価することができる。 ・仲間の文章を読みながら、実際に作ることを通して、説明書に書かれている表現のよさを見付ける。 ・いいね！カードで、説明書で工夫した表現のよさを伝え合う。 ・OPP Aシートに単元を貫く問い『説明をするときに大切なこととは何か。』について単元終わりの考えを書く。	学習を振り返り、身につけた力を今後の学びに生かそうとしている。 [学びに向かう力、人間性等①] <u>ワークシート・活動の様子</u> ・ここでは、単元全体を通して、説明をするときに大切なこととは何か自分の考えをもっているかを確認する。	【生活】おもちゃパーティーを振り返る（1時間） おもちゃパーティーを振り返ることを通して、よりよくするための改良ができたことや遊び方の工夫をすることができた自分に気づき、これからは仲間と一緒に遊びを作り出そうとする気持ちをもつことができる。

6 本時のねらい

〈作り方〉の短冊を使って正しい順番を考える活動を通して、「まず」や「つぎに」など順序を表す言葉を使うと正しい手順を伝えることができることに気付く、順序を表す言葉の意味や役割を考えながら〈作り方〉の説明を書くことができる。〔思考力、判断力、表現力等B（1）ウ〕

7 本時の展開（8/10）

児童の学習活動	研究に関わって
1 OPPAシートを見返す 全体の思考…おもちゃ図鑑を書くときにどんな書き方をすると一年生に正しく伝わるだろう。 個の思考…（例）おもちゃ作りを成功してもらうためには、どんな順番や言葉を使うといいだろう。 2 〈作り方 誤〉の説明を読み、本時の学習課題を立てる。 ・内容のまとまりを意識して並べた〈作り方 誤〉カードを基に、実際に作成してみる。 ★発見力の表出場面 ・「これだと正しく作れない」「作るときの順番に並べたほうが分かりやすいと思う」（違和感を抱く） 分かりやすく説明するには、どのような工夫ができるだろう。 3 順序を表す言葉がある場合とない場合を比較し、順序を表す言葉の役割を確認する。 ○どの言葉を加えると正しい手順を伝えられる？ ・「まず」「次に」などを入れると順番が分かる。 ○この言葉（「まず」「次に」など）がなかったらどう？ ・なくても分かるけど、「まず」があるから、一番初めにやることがわかるし、「最後に」という言葉があるから、最後の作業だと分かる。 ○①…②…の冒頭の番号だけでも手順は伝わるけど、「まず」「次に」等は必要？ ・番号を付ける方法もあるけど、最後が何番までかわからないから、言葉もあったほうがいい。「まず」「次に」があると話しかけているみたいで温かさを感じる。 →「まず」や「つぎに」等順序を表す言葉を使うことで正しい手順で伝えることができる。本当に相手を思う説明書になる。 4 自ら学習の進め方を決定し、書き始める。 ・〈作り方〉の短冊メモを用意し、手順通りに並び替える。 ・並び替えた短冊メモを読み、順序を表す言葉を付け足す。 ・段落のまとまりを意識して、詳しく書き足したり、段落に合う図や写真を加えたりする。 ・完成した文章を読み合い、正しく手順が伝わるか試作し、確かめ合う。 5 本時の学びを振り返る。 ・本時できたことや、次回の自分へのメッセージを書き、学びを振り返る。	1 【研究内容2－（2）】 ・育成する国語の資質・能力を意識するために、「OPPA表」に自己課題と自己省察を位置付ける。自己課題、自己省察の視点を明確にするために、単元でつきたい力と単元の活動について児童と共有し、見通しをもったり、これまでの学習とつなげられたりするようにする。 3 【研究内容3－（1）】 ・「個別の指導・援助プラン」を準備し、児童の言語活動状況を自己省察しながら、児童自ら学習調整するための形成的評価を行い、個別に指導する。 【★発見力の表出に関わって】 ・国語科が定義する「発見力」とは、「言葉による見方・考え方を働かせ、話したり、聞いたり、書いたり、読んだりして言葉を吟味する力」である。本時の発見力の表出は、「実際に作って確かめてみたり、短冊カードを並べ替えたりして、番号だけでは表しきれない相手を思う気持ちが順序を表す言葉にあることに気付く姿」である。よって本時は実際に作るという体験をもとに、言葉を吟味する活動を位置付ける。 【評価規準】 順序を表す言葉を使うと正しい手順を伝えることができることに気付く、順序を表す言葉の意味や役割を考えながら書いている。 〔思考・判断・表現B（1）ウ〕

〈作り方 誤〉 ※写真や見本を見せずに行う
 画用紙を開く。

色画用紙を半分に折って、折ったほうから切り込みを二本入れる。

切ったところを折る。

小さい画用紙で、飾りを作る。

手を画用紙の後ろに当てて、折ったところを押し上げ、しかけの台を作る。

しかけの台に、のりで飾りを貼る。

〈作り方 正〉

まず、色画用紙を半分に折って折ったほうから切り込みを二本入れる。
 切り込みの長さは4cm。
 切り込みと切り込みの間は、3cm。

次に切ったところを折る。
 こうすると、折ったところに線がついて、後で簡単に押し上げられるようになる。

それから画用紙を開く。
 手を画用紙の後ろに当てて、折ったところを押し上げ、しかけの台を作る。

今度は、小さい画用紙で、飾りを作る。

最後にしかけの台に、のりで飾りを貼る。
 貼るときは、カードを半分開いて台を立てる。

今日は、順序を表す言葉を使って、作り方を説明する文章を書くことができたよ。
 1年生の子が正しく作れるように、次回は写真をつけてもっとわかりやすく詳しい説明書を作っていきたいな。